

市町村名		嘉手納町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-①	観光史跡等説明板整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-イ		
担当部課名	教育委員会 社会教育課 中央公民館	事業実施(予定)年度	平成24~28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	魅力ある観光地づくりを目指し、地域資源・文化資源を活用した観光振興を図るため、町内に点在する史跡・旧跡等への多言語表記した史跡等説明板を設置する。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度繰越	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	13,240			3,000	3,451	4,384
		(b) 予算現額	13,020			2,835	3,758	4,546
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 220	0	▲ 165	307	162	
		(d) 繰越額	—	13,020				
		A. 計 (b+d)	13,020	13,020	2,835	3,758	4,546	
	B. 執行済額			13,020	2,835	3,758	4,546	
	うち交付金充当額			9,930	2,268	3,006	3,637	
	次年度繰越額		13,020					
	執行率 (%) (B/A)		0.0%	100.0%	100.0%	100%	100%	
予算の状況の説明		162千円の増額については、実施設計の結果、工事原価等の増加により、当初予算額より工事費が増加したため。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	町内の観光史跡等に説明板を設置	目標	( 9箇所 )	( 2箇所 )	( 2箇所 )	( 2箇所 )		
		実績	9箇所	2箇所	2箇所	2箇所		
			目標	( )	( )	( )		
		実績						
達成状況説明	目標としていた設置箇所(2箇所)すべてに説明板の設置を完了することができたことにより、国内外観光客への情報発信を強化し、観光客誘客促進を図るとともに、説明板の設置箇所についてHPで公開を行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
	観光史跡等説明板の整備率88%	目標	( )	( 50% )	( 59% )	( 88% )	( )	
		実績		50%	59%	88%		
			目標	( )	( )	( )	( )	
			実績					
進捗状況説明	多言語化した説明板を目標としていた全体予定数(22箇所)の内、H24(9箇所)、H25(2箇所)、H26(2箇所)、H27(2箇所)に説明板を設置の設置を完了する事ができ、計15箇所を整備し、整備率は88%となった。 説明板の設置により、国内外観光客への町内の観光史跡についての情報発信を強化し、説明板の設置箇所をHPで公開することにより、観光客誘客促進を図った。							

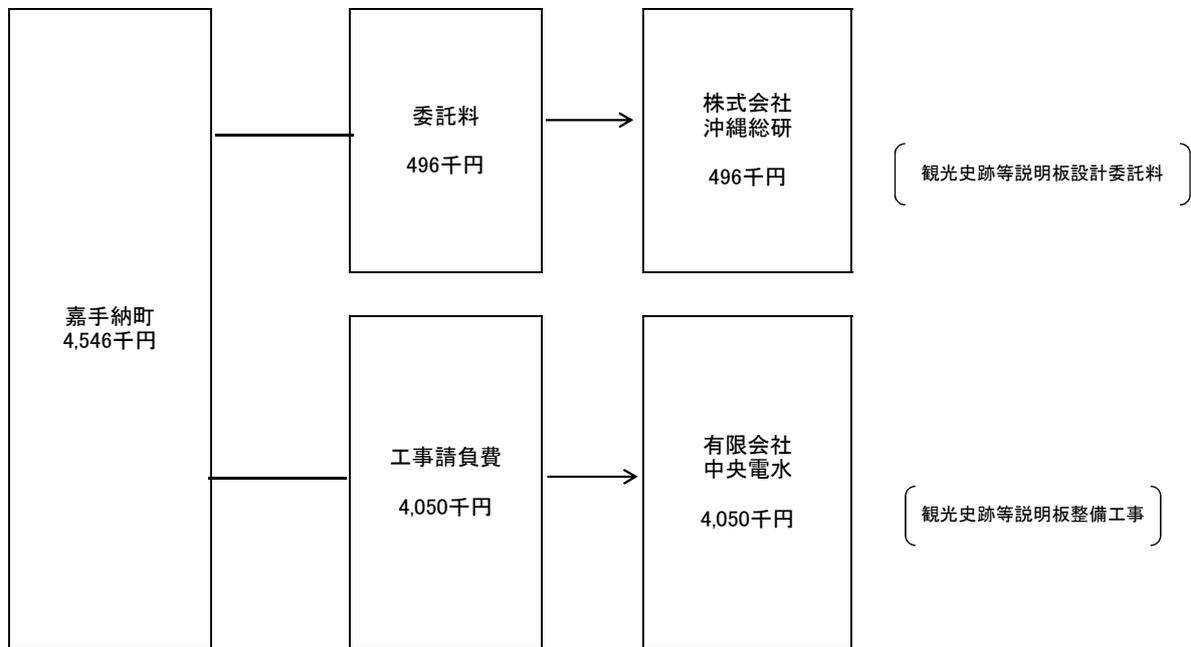
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本事業は多言語表記した史跡等説明板を設置することにより、国内外観光客へ町内の観光史跡についての情報発信の強化を行うことを目的とする。平成27年度においては、2箇所(栄橋、兼久のビジュアル)に説明板の設置を完了することができた。説明版の周知が十分とは言えず、表示方法についても地元住民からの要望等が出てきている。</p>	<p>説明板の表示方法について、いくつかの要望が出てきている。要望についての実現可能性について吟味し、実施可能なものについては今後実施していきたい。</p>

**今後の取り組み方針**

町指定文化財以外の史跡についても、引き続き地権者や郷友会等の地域の方々との意見交換を密に行い、残りの7か所について設置個所を増やしていく。説明板設置場所の周知方法について関係部署と連携し、イベント等との組み合わせなど検討していきたい。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

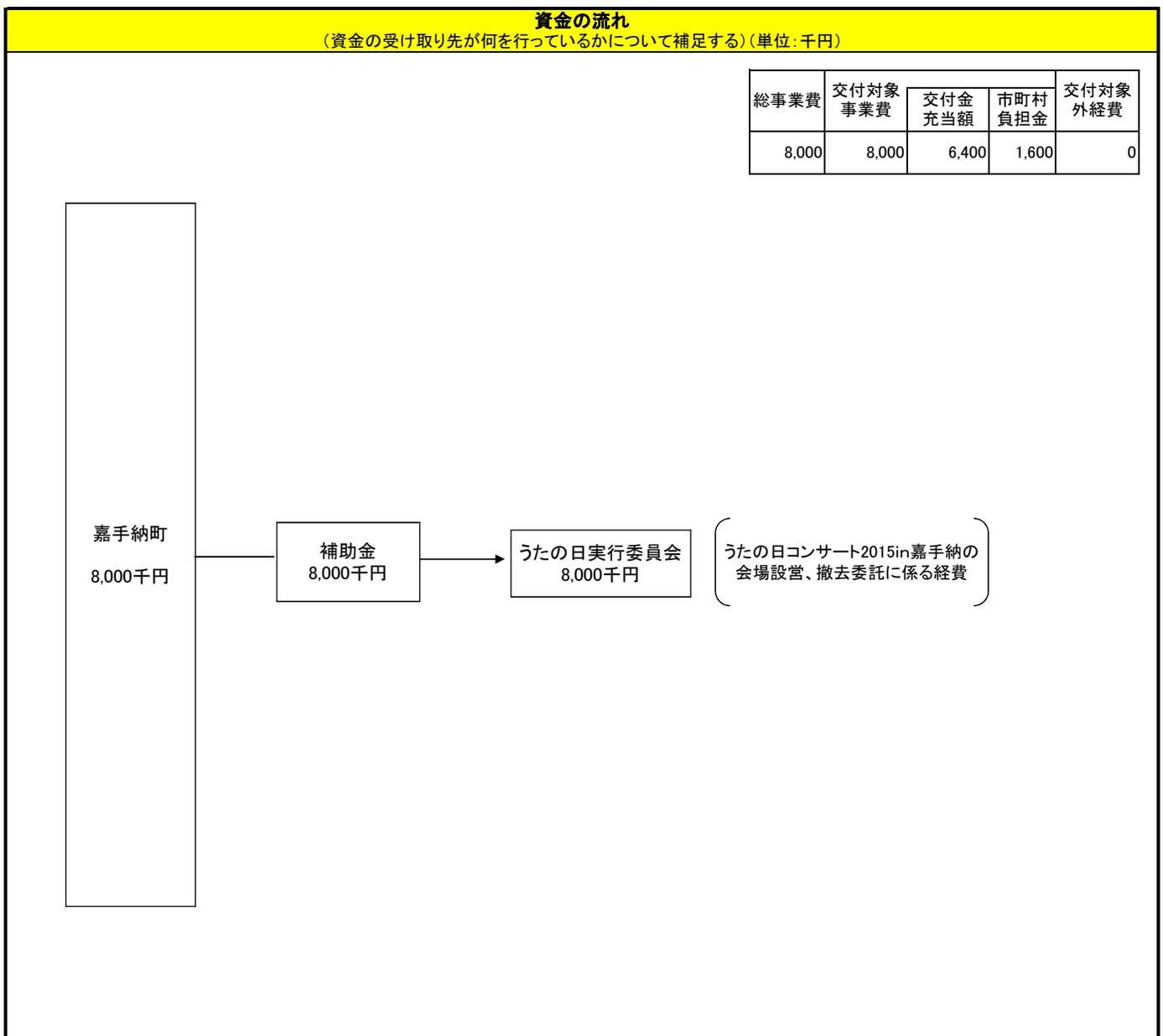
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,546	4,546	3,637	909	0



資金の 用途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負業者は入札により選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○設計委託業務により設計書を作成し、これを基に予定価格を設定し入札を行い工事請負費が確定されたことから、予算規模は適正であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○町内の指定文化財及び名所旧跡への説明板を設置しており、必要な工事請負費のみの支出であるため妥当であったと考える。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	うたの日コンサート事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-イ	
担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度	平成25~27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	沖縄出身のトップアーティスト「BEGIN」が主体となって開催している「うたの日コンサート」において開催を支援し、同コンサートを誘致することで多くの観光客を誘客し、町の活性化を図る。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	(a)当初予算額	8,000	8,000	8,000			
	(b)予算現額	8,000	8,000	8,000			
	(c)増減額(b-a)	0	0	0			
	(d)繰越額	0	0	0			
	A.計(b+d)	8,000	8,000	8,000			
	B.執行済額	8,000	8,000	8,000			
	うち交付金充当額	6,400	6,400	6,400			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明	コンサート会場の設営費及び撤去費の一部を補助して事業計画どおりに予算を執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	うたの日コンサートの開催支援	目標	会場設備に係る(経費の一部を補助)	(県内の大型イベントの誘致)	うたの日コンサート(の開催)支援	( )	
		実績	会場整備に係る経費の一部を補助	県内の大型イベントを誘致した。	うたの日コンサートの開催を支援した。		
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	うたの日コンサートに係る舞台施工費及び会場設営、撤去費の一部を補助し開催を支援したことで、コンサートを円滑に開催することができた。 うたの日コンサートの開催を支援したことで、本町へ県内外からの観光客を誘客することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	うたの日コンサートへの来客数:5,000人	目標	( )	県外観光客:1,000人	(来場者数:8,000人)	(来客者数:5,000)	( )
		実績		県外観光客:210人	来場者数:8,000人	来客者数:5,000人	
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	来客者数の目標5,000人の集客を達成することができた。要因としては、周知や広報活動を十分に行えたこと、うたの日コンサート開催が15回目でありイベントの認知度が向上したこと、開催前の2週にわたりテレビ番組で特集されたことが考えられる。 また、うたの日コンサートに出演できるイベントを実施したことで、新たな客層への周知と集客に繋げることができた。 来客者数の目標は達成できたことから、今後も早期の周知と広報活動の実施及びコンサート会場の定着化、認知度向上を図り来客者の増加につなげる。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	観光客誘客による本町の活性化を図るため、沖縄県出身のトップアーティスト「BEGIN」が主体となって開催している県内の大型イベント「うたの日コンサート」を誘致し、会場設営に係る経費の一部補助を行った。	本町の優良特産品の出品や町商工業者の出店に加え、来客者へガイドマップ等を配布し、本町の更なるPRの強化を図る。
	目標の来客者数を達成することはできたが、本町の活性化に繋げる更なるPR方法を検討していく必要がある。	新たに取り組むイベントは主催団体と情報共有する機会を多く持ち、イベント開催の周知や関係団体へ協力依頼等を効率よく実施する。
今後の取り組み方針		
他のイベント等でも積極的にうたの日のコンサートの周知活動を行うことで、町内でのコンサート開催の機運を高め、協力を依頼する関係機関の理解を得られるよう努める。 目標達成のため、テレビやラジオ、インターネットなど多様なメディアを活用した周知活動を行い、イベント会場の定着化、認知度の向上化を図り、集客につなげる。 出演参加型の新たなイベントを取り入れ、更なる集客と認知度の向上を図る。 ガイドマップ等の配布を主催団体に要請し、本町の更なるPRを図る。		



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については、過去の事業実績等を勘案し、決定したため妥当だと考える。 ○予算規模については、事業内容、事業開催条件、事業規模を確認し、補助金を支出しており適正だと考える。 ○費目・使途については額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-④ 嘉手納町観光客受入体制整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ア			
	担当部課名	産業環境課		事業実施(予定)年度	H26~H27	国際的な沖縄観光ブランドの確立		
				沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)			
事業内容	嘉手納町は多くの地域資源があるが、資源間のつながりが弱いため、観光客の回遊性が乏しい通過型観光になっている。本事業では、地域資源の観光地化を行い、資源間をつなぎ、情報発信を行うためのおもてなし観光ガイドを実施するとともに、必要となる専門的な助言や運営のサポートを行い、観光客誘客の促進を図る。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)			2,402	2,117			
				2,402	1,968			
				0	▲149			
				-	-			
				2,402	1,968			
			B. 執行済額					
			うち交付金充当額					
			次年度繰越額					
			執行率(%) (B/A)		88.8%	100.0%		
		予算の状況の説明 事業計画どおりに執行を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度		
	派遣期間:58日	目標	( 派遣期間:58日 )	( )	( )	( )		
		実績	派遣期間:58日					
	ホームページの作成	目標	( ホームページ作成 )	( )	( )	( )		
		実績	ホームページ開設					
観光情報カードの作成	目標	( 観光情報カードの作成 )	( )	( )	( )			
	実績	観光情報カードの作成						
達成状況説明	観光ガイド自立的な運営を行うために観光情報カードの作成や観光ガイドのホームページを開設した。観光情報カードの作成についてガイドを行う際に活用する写真やシナリオなどのツールを作成し、受入整備を図った。ホームページについては、ガイドのPRなどのコンテンツを掲載し、情報発信強化を行った。本事業において観光の専門的な立場から運営面の助言や研修など支援行っており、運営体制の構築が図られた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
	観光ガイドによる観光客の受入:30回	目標	( )	( 受入30回 )	( )	( )	( )	
		実績		受入24回				
		目標	( )	( )	( )	( )	( )	
		実績						
進捗状況説明	ガイドの実施研修として、モニターツアーの実施1人3回を設定し、認定したガイド10名の対応で30回を成果目標とした。実施にあたり2名が受講することが出来ず目標達成に至らなかった。 観光客の受入については、より実践に近い形でガイドを行うことが出来た。また観光客に対し、安全面や体調面に気配りするようになり、ガイドとしてのスキル向上が見られた。							

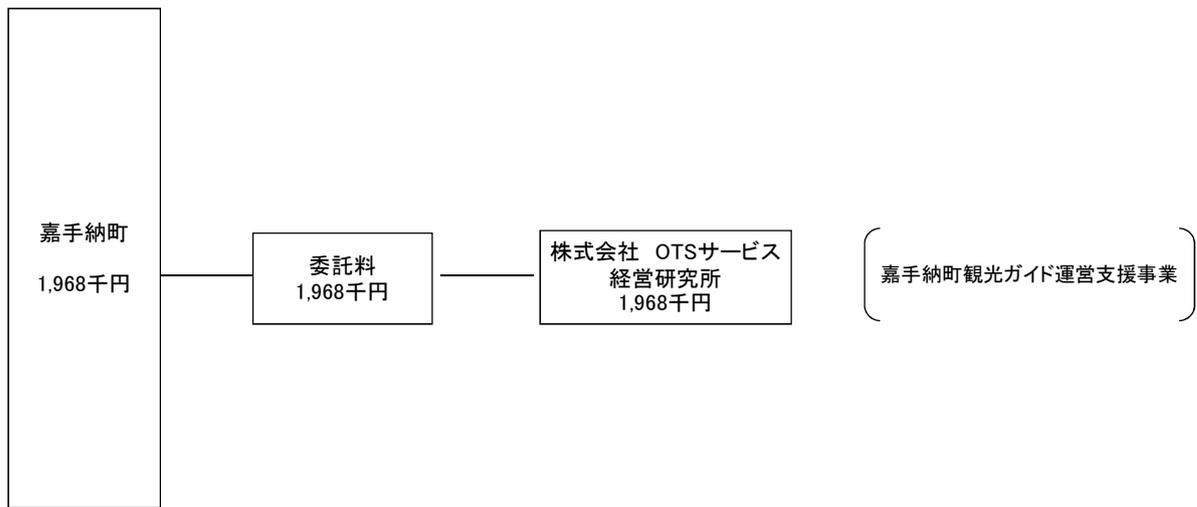
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度観光ガイド認定した2名が体調不良等により参加出来なくなった。</li> <li>開発した観光コースの他にも、様々な観光客のニーズに対応するコースを造成していく必要がある。</li> <li>観光ガイドのスキルアップやフォローアップ研修など行っていく必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後ガイドの育成講座を開催するなどガイドの人数を増やし、安定的にガイドを実施する環境を構築する必要がある。</li> <li>観光ガイドのフォローアップ研修などのガイドのスキルを向上させる必要がある。</li> <li>ターゲットをしぼった商品開発を行い、他地域にはない魅力ある観光資源を商品化する必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

平成28年度に一括交付金で実施する「嘉手納町観光ガイド育成講座」においては、観光ガイドを育成する。今後ガイドの人数を増やし安定的に観光ガイドを運営するように努める。また育成した観光ガイドと連携し、ターゲットをしぼった商品開発を行うことなど観光客の受入体制構築の強化を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
1,968	1,968	1,574	394	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は随意契約により決定したが、公募プロポーザルで選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については3社から見積もりを徴収し、比較検証したため適正な規模と考える。 ○費目・用途については額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	水釜護岸景観整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-ア	
担当部課名	都市建設課	事業実施(予定)年度	平成27~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	個性豊かで魅力あふれる基幹都市圏の形成 Ⅲ-1-1	
事業内容	水釜護岸は町内外から多数の観光客や町民の方々が訪れる観光スポットとなっている。新しい観光地としての可能性を再発見し、嘉手納町の独自性を生かした新しい観光地の創出を目的とする。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	5,000				
		(b) 予算現額	4,698				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 302				
		(d) 繰越額					
		A. 計 (b+d)	4,698				
	B. 執行済額		4,698				
	うち交付金充当額		3,758				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100%				
予算の状況の説明		当初予算額では5,000(千円)(委託)であったが、不用額の302(千円)は入札残によるものである。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	・現地踏査	目標	( 現地踏査基本計画の作成 )	( )	( )	( )	
		実績	現地踏査基本計画の作成				
	・ワークショップ等を開催し、基本計画の作成	目標	( ワークショップを2回予定 )	( )	( )	( )	
実績		ワークショップを2回実施した					
達成状況説明	基本計画を行うにあたり、ワークショップを開催し、地域住民の意見を基本計画に反映し、地域住民が利用したい施設になるよう配慮した。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	本町の現況把握	目標	( )	( 本町の現況把握基本計画の完了をした )	( )	( )	( )
		実績		本町の現況把握基本計画の作成をした			
	基本計画の作成	目標	( )	( 基本設計の作成予定 )	( )	( )	( )
		実績		基本設計の作成した			
進捗状況説明	有識者から専門的な観点から意見や提案を頂き、水釜護岸で実施できること、実施出来ないことを判別し基本計画を行った。						

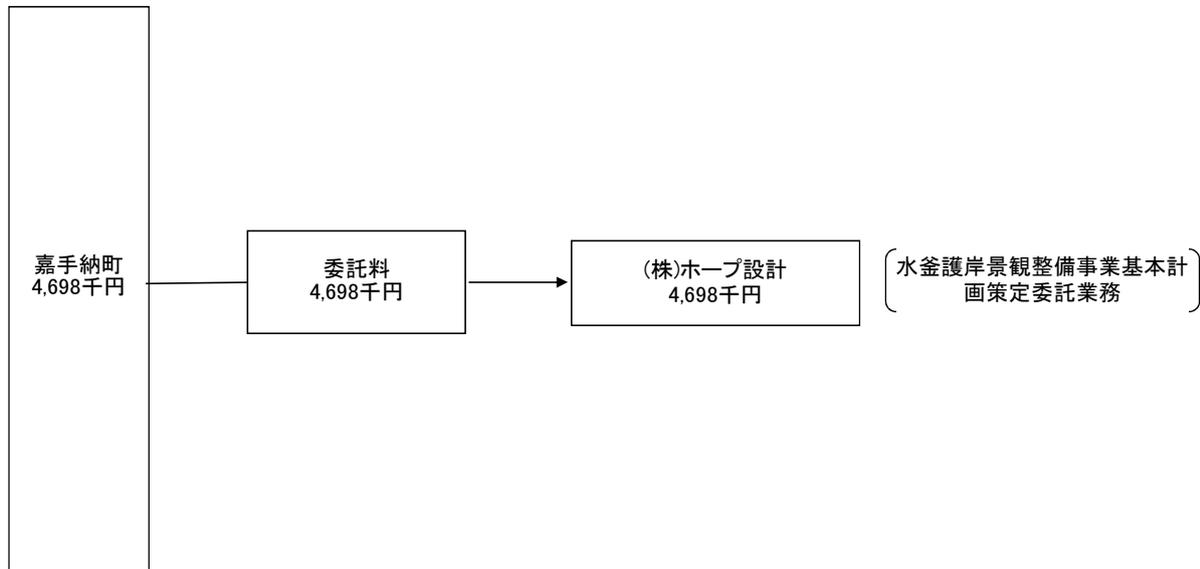
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・基本計画を行うにあたり、ワークショップや有識者から専門的な意見等があったがこの意見を基本計画にすべて反映することは不可能であることから、経済性、地域の安心安全、基本計画のコンセプト等を相対的に検討するため庁舎内の検討委員会を立上げ基本計画の方向性を決定した。</p>	<p>・平成27年度において策定した基本計画を踏まえ、基本計画の内容が可能なかを水釜護岸の管理者である沖縄県と調整し、実施に向けて管理者から意見をいただき、事業実施にむけて基本設計に反映していく。</p>

**今後の取り組み方針**

・多くの人々に利用される施設を整備する為、平成27年度にてとりまとめた基本計画に基づき平成28年度は関係機関との調整を行い、平成29年度からは基本設計、実施設計と実施していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,698	4,698	3,758	940	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○委託業務においては標準積算基準書を準拠し、委託料を積算しているため妥当だと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○不用額は事業費の4%以内であり適正な規模であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	嘉手納町
------	------

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑥	かでな文化センター機能向上事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-イ
担当部課名	教育委員会	社会教育課	事業実施(予定)年度	平成24~27年度
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容	観光振興促進を図るため、音楽や芸能、講演会など様々な催事に対応できるよう、かでな文化センター施設の機能向上を図る。
------	---

実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )
------	--

		24年度	25年度	25年度(繰越)	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	274,754	12,853	—	24,106	156,158
	(b) 予算現額	273,840	89,394	—	29,074	173,988
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 914	76,541	—	4,968	17,830
	(d) 繰越額	—	—	52,140	—	—
	A. 計 (b+d)	273,840	89,394	52,140	29,074	173,988
	B. 執行済額	273,840	37,254	44,991	27,628	173,988
	うち交付金充当額	218,570	29,803	32,340	22,102	139,190
	次年度繰越額	—	52,140	—	—	—
	執行率(%) (B/A)	100.0%	41.7%	86.3%	95.0%	100.0%
	予算の状況の説明	・楽屋側(出演者側)の機能向上を図るための多目的トイレ新設工事や、来場者の安全面を考慮したホワイエカーペットの張替工事に必要な経費20,958千円を増額した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		27年度	28年度	29年度	30年度
バリアフリートイレの整備	目標	( 3箇所 )	( )	( )	( )
	実績	3箇所			
客席段差解消機及びエレベーターの整備	目標	( 1基 )	( )	( )	( )
	実績	1基			
ホール内客席通路手すり設置	目標	( 144箇所 )	( )	( )	( )
	実績	144箇所			
事務室移設	目標	( 実施予定 )	( )	( )	( )
	実績	実施済			
ホワイエカーペット張替え	目標	( 実施予定 )	( )	( )	( )
	実績	実施済			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多目的トイレを施設内に3箇所設置することで、身障者や高齢者が利用しやすい施設を提供することが可能となった。また、楽屋裏に設置したことで、出演者も利用しやすい施設となったことから、今までより幅広い事業の誘致が可能となった。</li> <li>・段差解消機及びエレベーターを設置することで、車椅子でも円滑に客席前方や舞台まで移動することが可能となった。</li> <li>・客席ホール内に手摺を144箇所設置することで、来場者の移動が安全かつ円滑に行えるようになった。</li> <li>・事務室をホワイエ内から庁舎エントランスへ移設したことにより、申請者や来場者の受付対応等の利便性の向上に繋がった。</li> <li>・トイレ新設に伴い、解れたカーペットを張り替えることにより、来場者の転倒の危険性を未然に防ぐことができた。</li> </ul>				

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
		バリアフリー化により、施設内の移動を円滑にし、利便性の向上を図る	目標	( 実施予定 )	( )	( )
		実績	実施済			
		目標	( )	( )	( )	( )
	実績					
進捗状況説明	かでな文化センターバリアフリー機能向上工事の施工が完了した。このことにより、車いすの方でも、客席前方や舞台裏まで移動することが可能となり、ホワイエや楽屋裏に多目的トイレを新設したことで、身障者や高齢者も活用しやすい環境を整えた。また、客席内に手摺を設置したことにより、高齢者も安全に客席内を移動することが可能となった。					

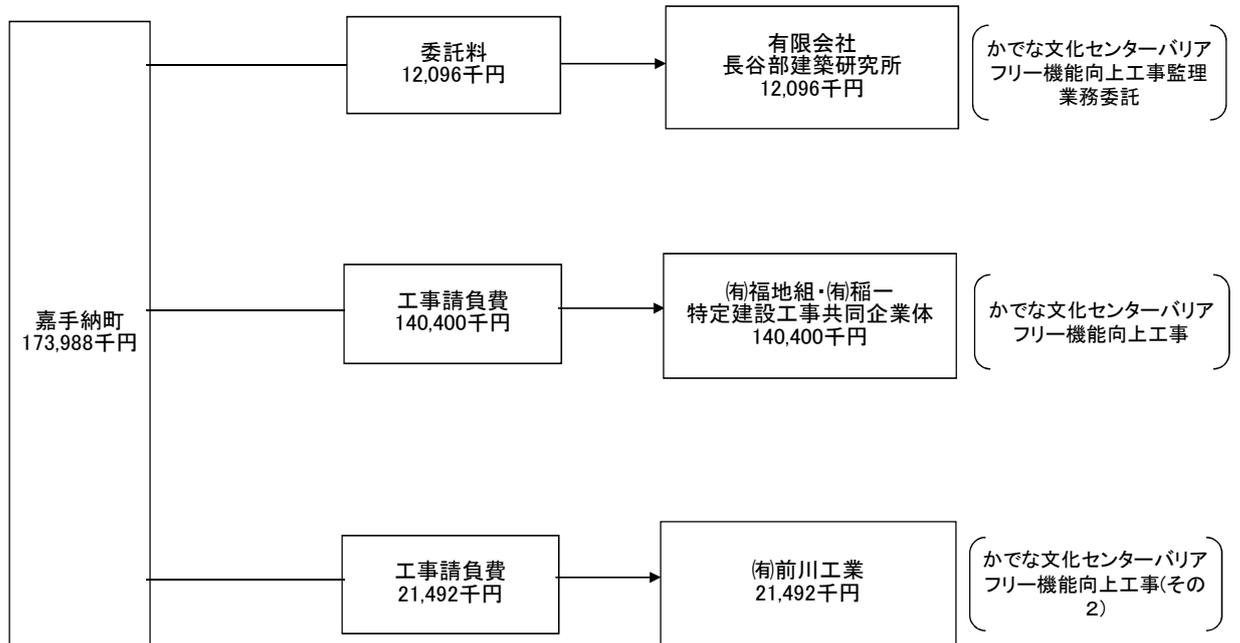
推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>施設内の移動は、階段を利用しなければならず、車いす利用者、高齢者等には、使用しづらい状況があったが、利用者にとって使用しやすい施設にするため、施設のバリアフリー化にむけての工事を施工した。</p> <p>多目的トイレを3箇所設置し、エレベーターや段差解消機を設置することで、身障者や高齢者等も施設内を円滑に移動することが可能となった。</p> <p>施設の構造上、一部スロープの斜路がきつく、介助者が必要になる部分があり、安全管理等対応策を図る必要がある。</p> <p>当初は、楽屋側の環境整備は検討されていなかったが、様々な催事を誘致し観光振興促進を図るためには、出演者側の環境整備も必要であると判断し、楽屋側にも多目的トイレを設置する等、来場者だけでなく出演者の利便性の向上を図ることができた。</p>	<p>スロープの斜路が一部急な箇所については、事前に主催者へ十分に説明し、当日係員を配置する等の措置をとり、表示物等で注意を促す。今後、斜路の角度等について改善策を検討する。</p>

**今後の取り組み方針**

斜路の改善策について検討する。  
バリアフリー化した施設を広くPRし、利用促進を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
173,988	173,988	139,190	34,798	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負業者、委託事業者については、指名競争入札で実績等を考慮し選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○執行率が100%だったことから適正な規模であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については、かでな文化センターバリアフリー機能向上工事を施工する上で、事業目的に沿った支出と判断できるため、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑦ 屋良東部地区地域振興施設機能拡充事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第5章-3-(2)-イ			
	担当部課名 産業環境課		事業実施(予定)年度 平成25~30年度		圏域の特色を生かした産業の振興			
事業内容	屋良東部地区地域振興施設は、年間約50万人の観光客が来場するが、展望場で米軍基地を展望した後、すぐ施設を退館する通過型の施設になっている。このような課題を解決し、観光誘客施設としての魅力を高めるため、平成26年度に策定した道の駅かでな機能拡充基本計画を基に基本設計を行う。							
	実施方法 <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	221,660	8,370	22,032			
		(b) 予算現額	158,665	149,517	22,032			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 62,995	141,147	0			
		(d) 繰越額	-	-	-			
		A. 計 (b+d)	158,665	149,517	22,032			
	B. 執行済額		158,663	149,138	22,032			
	うち交付金充当額		126,928	119,310	17,625			
	次年度繰越額							
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	99.7%	100.0%			
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行を行った						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	屋良東部地区地域振興施設機能拡充基本設計	目標	(道の駅かでな機能拡充基本計画の検討)	(屋良東部地区地域振興施設機能拡充基本設計の検討)	( )	( )		
		実績	道の駅かでな機能拡充基本設計検討を実施	屋良東部地区地域振興施設機能拡充基本設計の実施				
			目標	( )	( )	( )	( )	
		実績						
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度に策定した「道の駅かでな機能拡充基本計画」を踏まえ、庁舎内検討委員会を開催して、課題の整理や施設運営などを審議を行い、屋良東部地区地域振興施設機能拡充基本設計を取りまとめた。</li> <li>町内関係者団体からヒアリングを行い、計画に反映させた。</li> <li>計画内容に住民等の意向を反映させる為、パブリックコメントを実施した。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
	平成28年度実施設計に向けた事業の着実な実施	目標	( )	(道の駅かでな機能拡充基本計画策定の検討)	( )	( )	( )	
		実績		道の駅かでな機能拡充基本設計策定				
			目標	( )	( )	( )	( )	( )
			実績					
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>建築工事するため概算工事費を算出し、実施設計で基となる指標を示すことができた。</li> <li>基本設計図を作成し、施設機能拡充の概要を示すことができた。</li> <li>基本設計説明書を作成し、基本設計図の補足説明等、拡充する機能を明確に示すことができた。</li> <li>県内外の道の駅の施設運営を調査し、管理運営体制やテナントマネジメントなどの方向性を示すことができた。</li> <li>様々な角度から来場者の動線を検証し、配置計画を決定した。</li> </ul>						

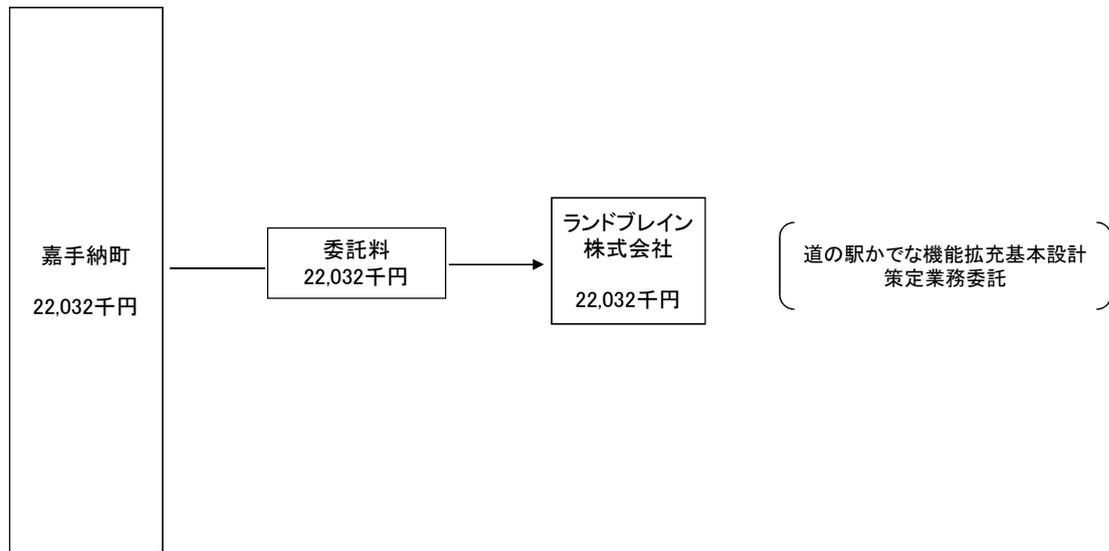
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・基本設計で策定した管理運営方法を実施するために、入居テナントの募集条件や管理運営体制を具体化し、施設運営のルールを構築する必要がある。また併せて店舗の規模や配置等を確定させ事業費の算出等、建築工事に向け取り組む必要がある。</p>	<p>実施設計では平成27年度に策定した基本設計で決めた方針をより具体的にし、各機能ごとのテナントの配置計画や施設整備方法など工事に必要な詳細図書を作成し、より効率的で効果的な工事実施につなげる。 施設の管理運営体制の方針をより具体化し、管理運営方法を策定する必要がある。</p>

**今後の取り組み方針**

・面積の確定や施設の配置等を確定させ、建築工事に必要な設計図書の策定を行い、効率的で効果的な工事実施に向けて取り組む。  
・入居テナントの募集要項や施設運営管理の要項等施設運営体制の構築を図り、効率的な施設の運営が行えるように取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
22,032	22,032	17,625	4,407	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については、事業の規模や実績等を勘案し、指名審査委員会にて決定したため妥当だと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、基本設計策定業務委託については2社以上から見積もりを徴収し、予算を積算しており妥当だと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については、精算段階で内容を検証しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑧		屋良城跡公園総合再整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-イ	
	担当部課名	都市建設課		事業実施(予定)年度	平成25~27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興
事業内容		観光資源に乏しい本町において、屋良城跡公園は比謝川を活用したエコツアーや川祭りの会場として大きな可能性を持っており、観光入域客数の増加や地域の活性化に向け、屋良城跡公園の総合再整備を行う。					Ⅲ-1-(1)
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	3,885	6,415	7,614		
		(b)予算現額	3,245	6,415	7,344		
		(c)増減額(b-a)	▲640	0	▲270		
		(d)繰越額	-	-	-		
		A.計(b+d)	3,245	6,415	7,344		
	B.執行済額		3,244	6,372	7,344		
	うち交付金充当額		2,595	5,097	5,875		
	次年度繰越額			-	-		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.3%	100.0%		
予算の状況の説明		・事業計画通りに執行した。 ・当初予算額は、7,614千円であったが、入札残により不用額270千円が発生した。 ・履行期間中における変更等もなく、また出来高不足もなかったことから当初契約額と変更なしで精算した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	屋良城跡公園総合再整備基本設計検討・測量業務(基準点測量・現地測量)・公園基本設計(現地調査・与条件の細部検討・諸施設の検討及び設計・基本設計図の作成・鳥瞰図及び透視図の作成)		目標 (基本設計業務の実施)	( )	( )	( )	
			実績	基本設計業務の実施			
			目標	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	・基準点測量、現地測量を実施した。 ・公園の完成した姿を明確に表すとともに、公園施設及び施工について概要を示すため、基本設計図を作成した。 ・実施計画をたてる上で基本となる概算工事費を算出した。 ・公園全体像をわかりやすく理解できるよう、諸施設の検討及び設定過程等についてとりまとめ、基本設計説明書を作成した。 ・公園の全体及び主要施設のイメージがわかる鳥瞰図及び透視図を作成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	実施設計に向けた事業の着実な実施(基本設計の完了)		目標 ( )	(基本設計実施)	( )	( )	( )
			実績	基本設計実施			
			目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
進捗状況説明	・基準点測量、現地測量を実施することにより、高低差や用地境界等を明確にし、基本設計の元となる指標を把握することができた。 ・基本設計図を作成することで、公園の完成した姿を明確に表すとともに、公園施設及び施工について概要を示すことができた。 ・概算工事費を算出することで、実施計画をたてる上で基本となる指標を示すことができた。 ・基本設計説明書を作成することで、与条件の細部検討過程や基本設計図の補足説明等、公園の全体像を正確にわかりやすく示すことができた。 ・鳥瞰図及び透視図を作成することで、公園の全体及び主要施設のイメージを示すことができた。 ・今後は、基本設計の成果を基に、実施設計を行う。						

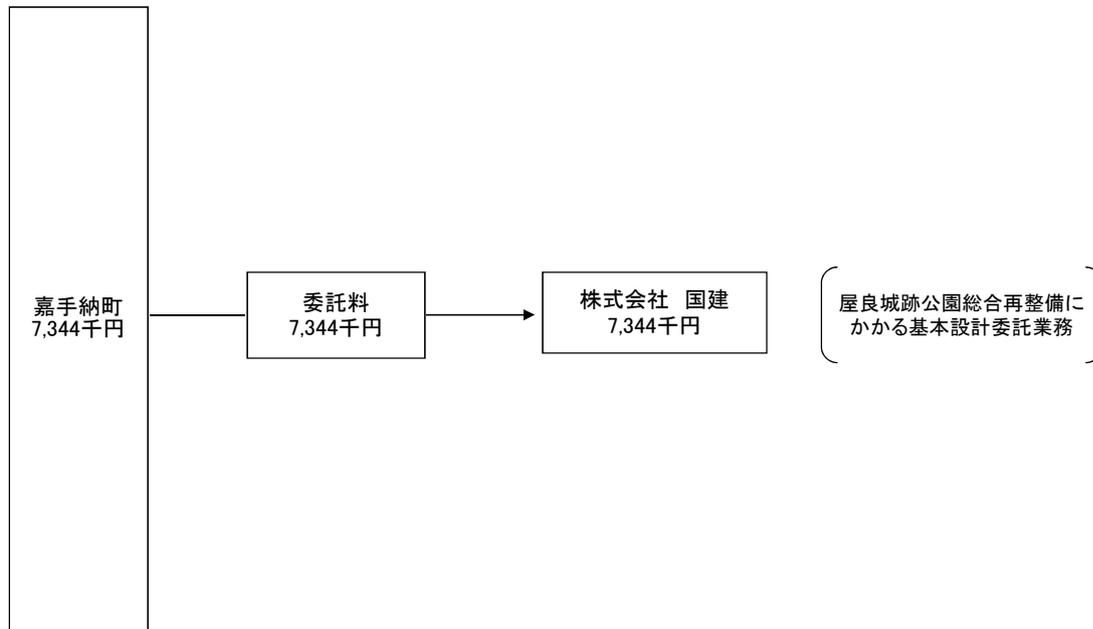
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本事業は城跡の名勝や比謝川の自然を体験してもらうことで、観光入域客数の増加や地域活性化に向け、既存公園の総合再整備を行うものである。</p> <p>27年度は、26年度で実施した基本計画(関係者ヒアリング・ワークショップ・庁内検討委員会)の結果を踏まえ、基本設計を実施した。</p> <p>前年度までの成果により、埋蔵文化財調査の必要性が判明していたが、再整備の範囲が明確にならなければ調査の必要な範囲等の判断ができなかったため、これまで調査が実施できなかった。</p> <p>鳥獣保護区についても、沖縄県知事の許可の必要性が判明していたが、再整備の内容が定まっていなかったため、関係する組織等との調整ができなかった。</p> <p>公有地である公園内に墳墓が点在しているため、再整備にあわせて墳墓の移転が必要となる。</p>	<p>平成27年度において実施した基本設計を踏まえ、実施設計では諸施設の構造、施工方法を決定し、工事に必要な詳細図書を作成し、工事の算出を行う。</p> <p>埋蔵文化財調査においては、基本設計図にもとづき、本町教育委員会との調整を行い、円滑な事業施行につなげる。</p> <p>本事業では、樹木の伐採等も検討していることから、基本設計業務の成果を基に、沖縄県と調整を行い、許可が得られるよう調整していく。</p> <p>墳墓については、墳墓所有者及び管理者調査、移転料の算出等を行い、公園内に点在する墳墓を移転し、今後の事業の円滑な施行につなげる。</p>

**今後の取り組み方針**

多くの人々に利用される華やかな公園とするため、平成28年度では平成27年度までに取りまとめた成果をもとに、公園内に位置する墳墓の詳細把握及び移転料等に関する費用の算出を行う。平成29年度は、実施設計を行い具体的な構造物の配置・事業費の算出等を行う。平成30年度以降で整備工事を実施する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
7,344	7,344	5,875	1,469	0



資金の 用途の 流れ、 点検 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法に関し、指名競争入札により決定した。県内において、公園基本設計の実績を有する業者を指名し入札に付したことにより、同等程度の実力の業者間で価格競争が促されたことにより、事業遂行能力及び経済性をも勘案した内容での発注ができた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、執行率95%以上であり適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目及び用途については、屋良城跡公園総合再整備基本設計業務を実施するうえで、事業目的に沿った支出であり適正であると考えられる。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑨ 兼久海浜公園リニューアル事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第5章-3-(2)-イ			
	都市建設課		事業実施(予定)年度 平成26~28年度		圏域の特色を生かした産業の振興			
担当部署			沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-1-(1)			
事業内容	新たにスポーツ等の観戦客や公園を利用する町外からの入域数の増加を図るため、これまでの施設利用方法、利用者層及び公園ニーズについて再検証し公園施設の再検討を行うとともに、その結果を基に公園のリニューアル整備を行う。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	10,044	10,725				
		(b)予算現額	10,044	10,725				
		(c)増減額(b-a)	0	0				
		(d)繰越額	-	-				
		A.計(b+d)	10,044	10,725				
	B.執行済額		8,856	10,584				
	うち交付金充当額			8,467				
	次年度繰越額		-	-				
	執行率(%) (B/A)		88.2%	98.7%				
予算の状況の説明		事業計画通りに執行した。 当初より予定していた内容にて競争入札を執行した。入札の執行により競争が促され約98%の落札率となった。履行期間中における変更等もなく、また、出来高不足等もなかったことから、当初契約額と変更無しで精算した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度		
	施設整備計画の検討	目標	(施設整備計画の検討)	( )	( )	( )		
		実績	前提条件の整理、リニューアルにあたっての基本理念や基本方針の設定					
	事業計画の検討	目標	(事業計画の検討)	( )	( )	( )		
		実績	整備手法、整備スケジュール、施設整備にあたっての課題と対応策の検討					
	ワークショップの実施(2回程度)	目標	(2回程度)	( )	( )	( )		
		実績	3回実施					
	庁内検討会議開催(2回程度)	目標	(2回程度)	( )	( )	( )		
		実績	3回実施					
達成状況説明	・前提条件の整理を踏まえ、基本理念や基本方針の設定を行った。 ・施設整備に向け、今後の事業計画として整備手法、事業費の試算、整備スケジュール、整備にあたっての課題と対応策の検討を行った。 ・町民を対象に、全3回ワークショップを開催した。1~2回目で出たゾーニング案を、3回目のワークショップで投票により決定した。 ・兼久海浜公園が抱える問題課題等を把握し、リニューアルに向けた方向性を確認した。 ・これらの内容を取りまとめ、全3回の庁内検討会議での審議を経て基本計画を策定した。庁内検討会議1~2回目で基本計画案に対する意見徴収をし、3回目に修正した内容をもって基本計画を策定した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
	平成28年度基本設計に向けた事業の着実な実施(基本計画の完了)		目標	( )	(基本計画の策定)	( )	( )	( )
			実績		基本計画の策定			
	進捗状況説明	・兼久海浜公園リニューアル基本計画を策定することで、今後の基本設計・実施設計を円滑に進められるよう計画を策定した。 ・ワークショップを行う事で、町民意見や要望等を把握し、その結果計画に反映する事ができた。 ・今後の施設整備に向け、基本計画等の上位計画に基づき、諸施設を現地と対応させるとともに、各施設相互の調整を図り、規模、位置、内容等を設定する。 ・平成28年度は、今回策定した基本計画を基に、基本設計を行う。						

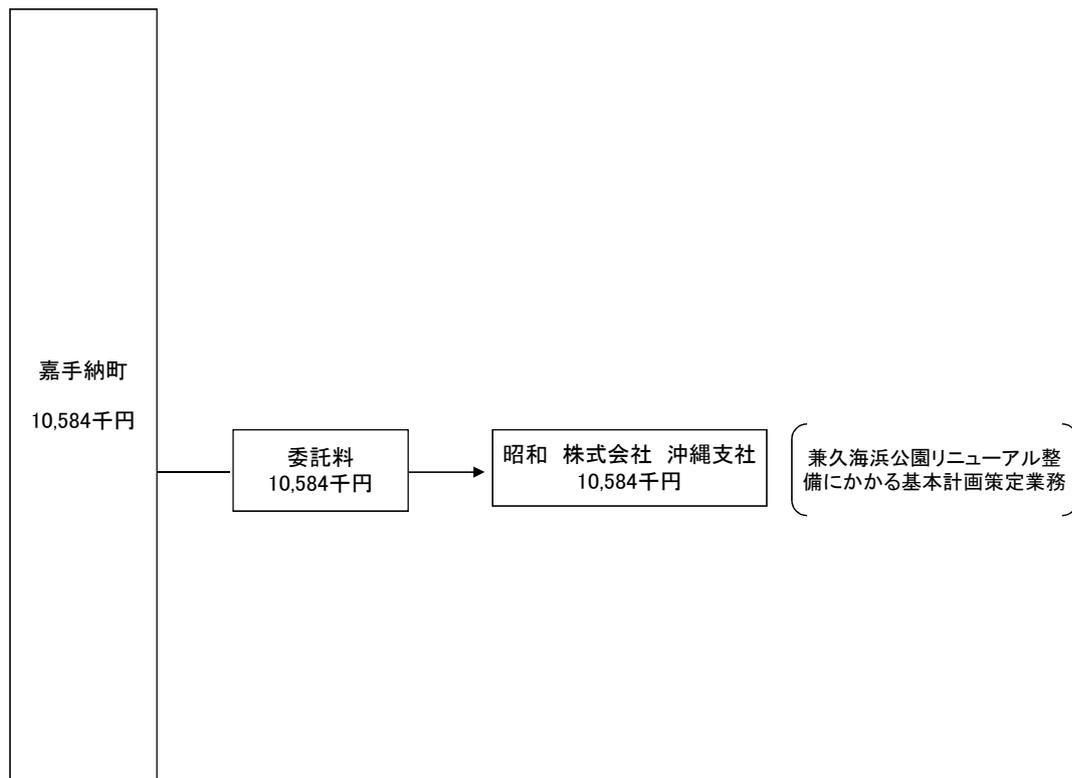
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道及びバス停からの案内がわかり難い。</li> <li>・本公園で既に開催されている「野國總官まつり」や「うたの日コンサート」による集客・誘客効果を勘案した整備方策を検討する必要がある。</li> <li>・公園利用者層の拡大をはかるために周辺施設との連携を検討する必要がある。</li> <li>・海浜公園であるが、海との関わり・ふれあいが弱い。</li> <li>・体育館規模・導入機能の再検討が必要である。</li> <li>・既設多目的広場への大型遊具の設置の検討が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセス路を明確にし、わかりやすい誘導サイン設置等の検討をする必要がある。</li> <li>・イベントによる誘客集客に寄与する為、整備方針について関係団体及び町関係課からのヒアリング等を行う必要がある。</li> <li>・隣接する商業施設や周辺施設との連携を検討するため、関係者からのヒアリングを行い、周辺施設利用者と公園利用者の相互連携を図る必要がある。</li> <li>・海との関わりを強めるため、海岸の管理者である沖縄県と海浜部分の整備について、十分な協議・調整を行い改善策を検討する必要がある。</li> <li>・体育館の必要性や事業費の妥当性を見据えた詳細確認が必要である。</li> <li>・大型遊具の規模の確認、設置場所の検討、デザインの確認が必要である。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

前年度までの成果を踏まえた上で、諸施設を計画地と対応させるとともに、各施設相互の調整を図り、規模、位置、内容を設定する。また、庁内の関係各課の意見を反映させるために庁内検討委員会に諮る。本公園の実施設計の指標が明確となる基本設計を行う。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

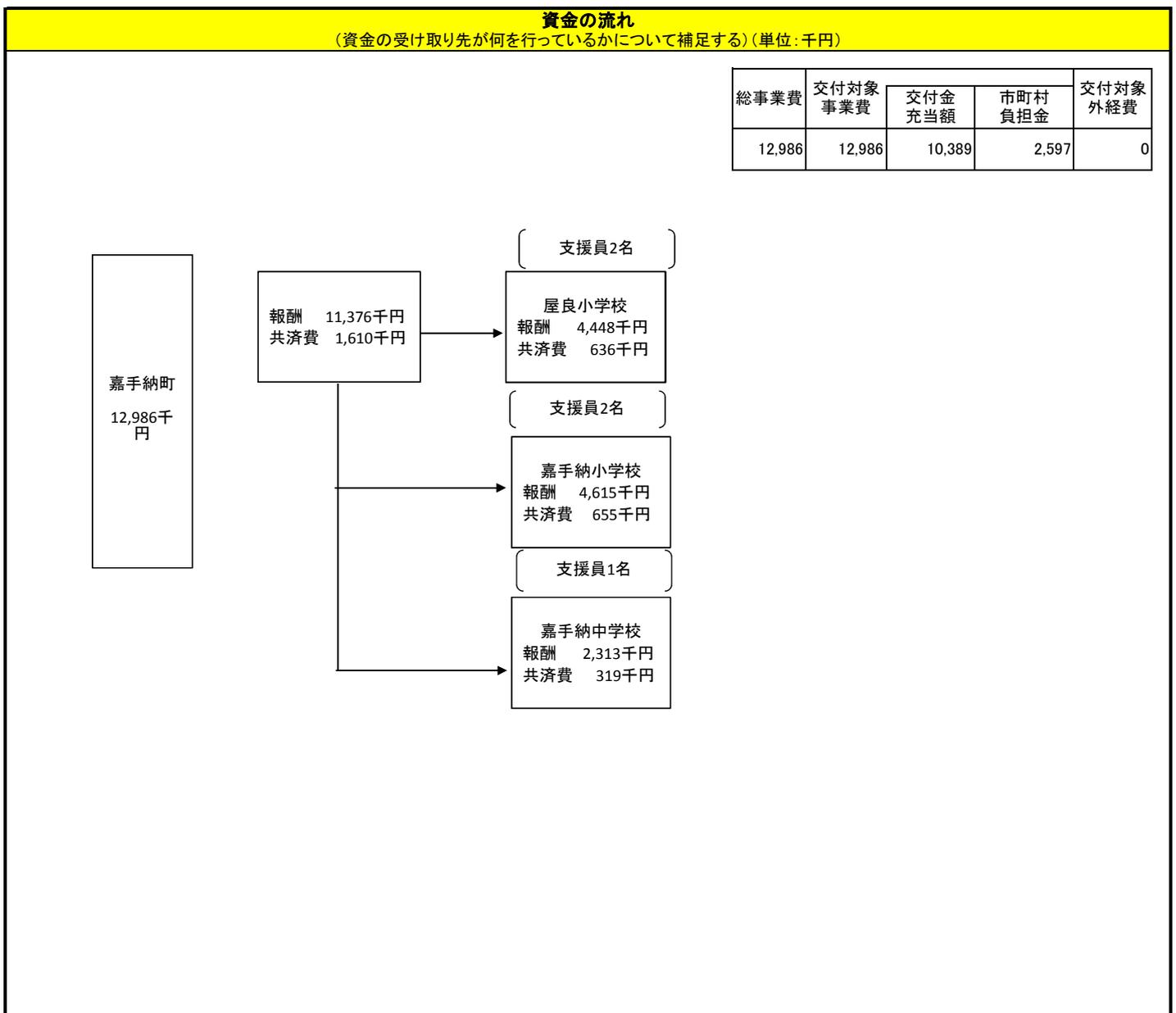
総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
10,584	10,584	8,467	2,117	0



資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法に関し、指名競争入札により決定した。県内において、公園基本計画業務の実績を有する業者を指名し入札に付した。その結果、同等実力の業者間で価格競争が促され、事業遂行能力及び経済性をも勘案した内容での発注ができた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費目及び使徒に関し、本業務では、施設整備計画の検討、事業計画の検討、ワークショップ、庁内検討会議、リニューアル基本計画の策定を主として行っている。これらは事業目的に即し適正であると判断する。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①		学習支援配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
	担当部課名	嘉手納町教育委員会 教育指導課		事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力をつける教育の推進
事業内容		算数、数学、国語の基礎学力定着のため、教師と連携を図りながらチームティーチング、習熟度別授業を行い、また、長期休業における個別指導及び放課後の補習授業を行う学習支援員を配置する。					Ⅲ-3-(1)
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)				24年度	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,631	10,544	10,552	13,212	
		(b) 予算現額	2,631	10,416	10,552	12,986	
		(c) 増減額(b-a)	0	▲128	0	▲226	
		(d) 繰越額	—			—	
		A. 計(b+d)	2,631	10,416	10,552	12,986	
	B. 執行済額		2,631	10,416	10,277	12,986	
	うち交付金充当額		2,000	8,000	8,221	10,389	
	次年度繰越額		—	—	—	—	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	97.4%	100.0%	
予算の状況の説明		学習支援員を本町小学校に4名、中学校に1名を配置し、報酬と社会保険料をそれぞれ12ヶ月分を執行している。不用額が226千円でているが欠勤による報酬の残額である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	学習支援員配置数 小学校:4人、中学校:1人	目標	( 小学校3人 中学校1人 )	( 小学校3人 中学校1人 )	( 小学校3人 中学校1人 )	( 小学校4人 中学校1人 )	
		実績	小学校3人 中学校1人	小学校3人 中学校1人	小学校3人 中学校1人	小学校4人 中学校1人	
			目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
達成状況説明		小学校においては、全学年を対象に算数の時間に学級を分割。少人数を学習支援員が担当した。また、放課後の補習指導において学習支援員が問題を作成し、添削指導を行った。 中学校においては、学級内TT(二人指導者体制)を実施し、理解の遅い生徒に対して、学習支援を行っている。数学を優先させ学力向上に力を入れる。 国語においては、小中学校ともに学力の弱い児童生徒に対し放課後補習をおこなっている。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	県到達度調査における国語算数正回答率を各学年とも県平均以上とする	目標	( )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	( )
		実績		小3 × 小5 ○ 中2 ×	小3 ○ 小5 ○ 中2 ×	小3国語× 算数× 小5国語× 算数× 中2国語× 算数×	
			目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
	進捗状況説明		国語の県平均は、小学3年生、63.3%、小学5年生57.7%、中学2年生52.1%で、各学年の平均が3年生60.3%、5年生53.1%、中学2年生47.7%という結果になっている。 算数・数学の県平均がそれぞれ3年生80.7%、5年生37.1%、中学2年生42.7%で、各学年の平均が3年生77.3%、5年生32.7%、中学2年生40.8%という結果になっている。県平均を上回ることができなかった。思考力、判断力を問われる応用問題への対応ができず課題となった。				

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	学習支援員の活用によって、基礎学力を計算力や漢字力として、その力を児童生徒に身につけさせるように、取組を行っていた。そこで、基礎学力の定着が、一定の分野に限定されている。 また、学習支援員の指導についても、一人一人に対して丁寧な指導を行い、学力の底上げを図る必要がある。	改善策として、児童生徒が思考力・判断力を身につけるような、授業の改善を行っていく。 ①授業の中で、一問一答での授業ではなく、児童生徒が考え、問題を解く道筋を説明できるような授業展開を行う。 ②思考力・判断力を身につけるため、プリントで宿題をだし、予習復習の定着を目指す。 ③補習指導では、基礎基本の定着をしっかりと行い、授業では思考力・判断力を問う問題を実施するようにする。
	<b>今後の取り組み方針</b>	
<p>①授業を改善していくため、教育指導課で作成した「かでな授業改善いきいきプラン」を活用して、児童生徒が考えて、自分の言葉で説明できるような授業の展開へと変えていく。</p> <p>②授業と家庭学習の連動として、授業の復習だけでなく、次の授業で必要とされる技能を身につけるような宿題を課す。</p> <p>③補習指導で、前学年度までの内容をしっかりと押さえられるように学級担任と協力した補習指導の実施を行う。</p> <p>これらを通して、県到達度調査における国語算数正答率を各学年とも県平均以上とする。</p>		



資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。 ○予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。 ○費目・用途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	英語力強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部署名	嘉手納町教育委員会 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進	
事業内容	教育課程特例校としての特典を生かし、英語力を向上させるため、ネイティブスピーカーの講師の活用で、小学校では英語に親しむ環境をつくり、中学校では、臨場感のある実用的な英語を学ぶ指導補助として、また英語科に英語指導員を配置することで、生徒の個別の学習支援、英語検定取得のための支援を行い、英語力の向上に繋げる。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
		(a)当初予算額	2,982	13,741	16,014	15,881	
	(b)予算現額	2,982	12,775	16,014	16,132		
	(c)増減額(b-a)	0	▲966	0	251		
	(d)繰越額	-	-	-	-		
	A.計(b+d)	2,982	12,775	16,014	16,132		
	B.執行済額	2,982	12,775	15,720	16,132		
	うち交付金充当額	2,300	9,665	12,576	12,906		
	次年度繰越額	-	-	-	-		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	98.2%	100.0%		
予算の状況の説明	囑託員として英会話指導員5名、英語指導員1名を雇用。当初の日額を増額したため、それに伴い社会保険料の251千円増となっている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
	英会話指導員配置数 小学校:3人、中学校:2人	目標	( 小学校3人 中学校2人 )	( 小学校3人 中学校2人 )	( 小学校3人 中学校2人 )	( 小学校3人 中学校2人 )	
		実績	小学校3人 中学校2人	小学校3人 中学校2人	小学校3人 中学校2人	小学校3人 中学校2人	
	英語指導員配置数 中学校:1人	目標	( )	( 中学校1人 )	( 中学校1人 )	( 中学校1人 )	
		実績		中学校1人	中学校1人	中学校1人	
	達成状況説明	英会話指導員を小学校3名、中学校2名、英語指導員1名を配置。 小学1年生から中学3年生まで週1時間を英会話の時間として確保し、学級担任とALTとで授業を展開している。 小学校は、授業で「ターゲットフレーズ」を設定して、学年段階で系統性のある指導が行えるようにしているが、ターゲットフレーズの数量や難易度が高くなるため、高学年での定着が弱いという結果になっている。 中学校では、英語担当教師と連携し、実践英語に取り組んでいる。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	平成27年度
	【小学校】各学年のターゲットフレーズ(日常会話4項目～5項目)の習得率が前年度を上回る	目標	( )	( )	( )	( )	( 41.57% )
		実績					51.49%
	【中学校】英語検定受験者合格率(27%)	目標	( )	( 50人 )	( 50人 )	( 50人 )	( 27% )
		実績		35人	52人	53人	43.50%
進捗状況説明	小学校においては、英会話に慣れ親しむための授業が定着しており、児童のアンケートで「ALT・担任の先生が話している英語の意味がわかりますか。」の項目で、平成26年度から41.57%、平成27年度51.49%となり、リスニング力の強化につながった。今後は、小学校段階でのターゲットフレーズ(重点的に指導していく会話フレーズ)の更なる習得に向けて取り組む。 中学校においては、3級以上の英検受験者の合格率も例年通りに推移させている。						

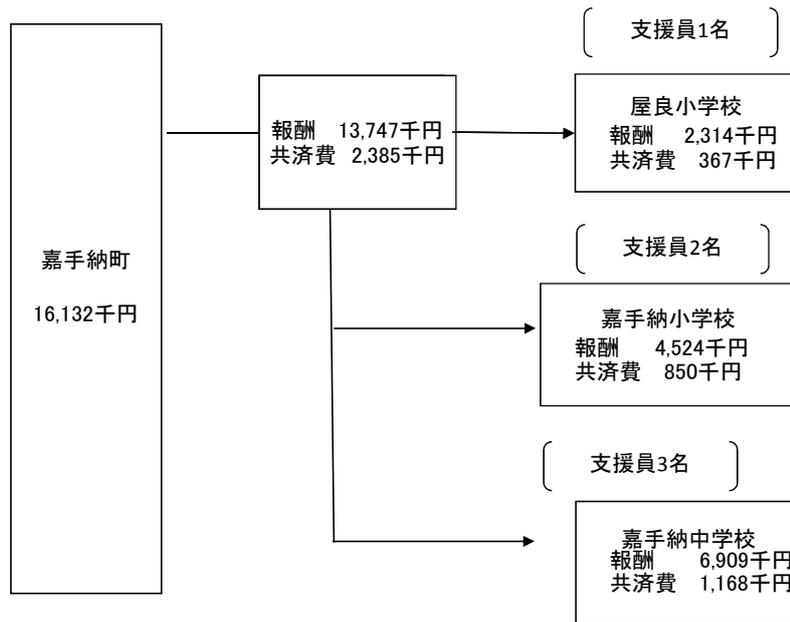
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>小学校では、新しく習う「ターゲットフレーズ」が、学年が上がると習得すべき量が多くなっていくため繰り返し指導が必要になる。そのため、高学年では「ターゲットフレーズ」の数が多く、表現も難しくなるため、定着が弱いという結果になっている(教師アンケートの4段階評価で2という結果になっている。「4が高く、1が低い」)。また、中学校でも、英検受験を推奨していて、意欲が高まっているが、合格率をさらに上げるようにする。</p>	<p>課題を克服していくために以下の点から改善が図られるようにする。          ①小学校での「ターゲットフレーズ」を厳選して重点化し、繰り返し会話の中で使用できるように、日常会話に焦点化していく。          ②英語に対する親しみ学習意欲を高めるため、ゲームなどの要素を取り入れながら授業を通して「英語をもっと学びたい」という気持ちを醸成する。          ③英検受験への声かけを、英語指導員で行い、英検対策を行う。</p>

**今後の取り組み方針**

平成28年度は以下の点で、課題の改善に取り組んでいく。  
 ①ALT・英語支援員の研修会において「ターゲットフレーズ」の見直しを行い、繰り返し使用できる会話を、定着するまで小学校では6年間継続していけるような学習計画を設定していく。  
 ②児童生徒が英語に意欲的に取り組み、活動できる英会話授業の展開を、学級担任と協力しながら構築していく。  
 ③英検受験を推奨していくよう英語指導員から声かけを行い、対策講座を開催する。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
16,132	16,132	12,906	3,226	0



資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。 ○予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。 ○費目・使途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③		ICT活用事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
	担当部課名	嘉手納町教育委員会 教育指導課		事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進
事業内容		情報活用能力の育成や学校における情報化を推進するため、パソコン指導員を配置する。また、授業でのPC活用を推進するためフラッシュ教材を活用した授業支援も行う。					Ⅲ-3-(1)
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)				24年度	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,773	7,891	7,034	7,050	
		(b) 予算現額	1,773	7,891	7,034	6,113	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 937	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	
		A. 計 (b+d)	1,773	7,891	7,034	6,113	
	B. 執行済額		1,773	7,891	6,908	6,113	
	うち交付金充当額		1,300	6,220	5,526	4,890	
	次年度繰越額		-	-	-	-	
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	98.2%	100.0%	
予算の状況の説明		パソコン指導員を本町小学校に2名、中学校に1名を配置し、報酬と社会保険料をそれぞれ執行している。不用額は、3ヶ月の1名欠員が出たためである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	パソコン指導員配置数 小学校2人、中学校1人	目標	( 小学校2人 中学校1人 )	( 小学校2人 中学校1人 )	( 小学校2人 中学校1人 )	( 小学校2人 中学校1人 )	
		実績	小学校2人 中学校1人	小学校2人 中学校1人	小学校2人 中学校1人	小学校2人 中学校1人	
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	パソコン指導員を配置し、PC教室の環境づくりや関連機器の準備を行い、担任がスムーズにパソコンを活用した授業が展開できている。また、電子黒板の活用においても、指導員がアイデアの提供を行い、わかる授業・視覚に訴える授業の展開が図れている。児童生徒の機器操作においても、指導の補佐に当たること、スキルアップにつながっている。同時に、教職員のPC操作サポートを行い、校務の効率化につながっている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	【小学校】キーボード検定サイトにおいて学年目標級を達成する。(達成率60%)	目標	( )	3学年23級(80%以上) 4学年17級(60%以上) 5学年8級(40%以上) 6学年初段(20%以上)	3学年23級(80%以上) 4学年17級(60%以上) 5学年8級(40%以上) 6学年初段(20%以上)	( 達成率 60% )	( )
		実績		3学年31% 4学年35% 5学年4% 6学年5%	3学年83% 4学年32% 5学年7% 6学年3%	56%	
	【中学校】オフィス系のソフト活用力の向上 パソコン検定にむけての指導 (前年度を上回る受検率)	目標	( )	1・2年5~4級 3年3級	1・2年5~4級 3年3級	前年度受検率 3.2%	( )
		実績		1・2学年 受検18名 内5級以上 合格13名(72%) 3学年 受検9名 内3級以上 合格7名(78%)	1・2学年 受検17名 内5級以上 合格12名(70.5%) 3学年 受検15名 内3級以上 合格12名(80%)	今年度受検率 1.8%	
	進捗状況説明	小学校のパソコン授業において、パソコン指導員を活用して授業を展開している。その際に、児童のパソコン技能の向上を目指して授業を行っている。また、教科の目的に応じて、調べ学習や発表の手法として活用している。そこで、パソコン指導員が補助し、技能の向上に努めている。キーボード検定は、学年毎に目標級を持ち、達成を目指しているが目標級が高く設定されているため、目標が達成されていない。 中学校においては、実用に応じたタイピングを取り入れ、習得を図り、指導員と担当教師との連携を図りながら、生徒のパソコン技能向上に努めている。放課後に、パソコン指導員が対策講座を開設し、PC検定に取り組むが、受検者数が伸びていない。					

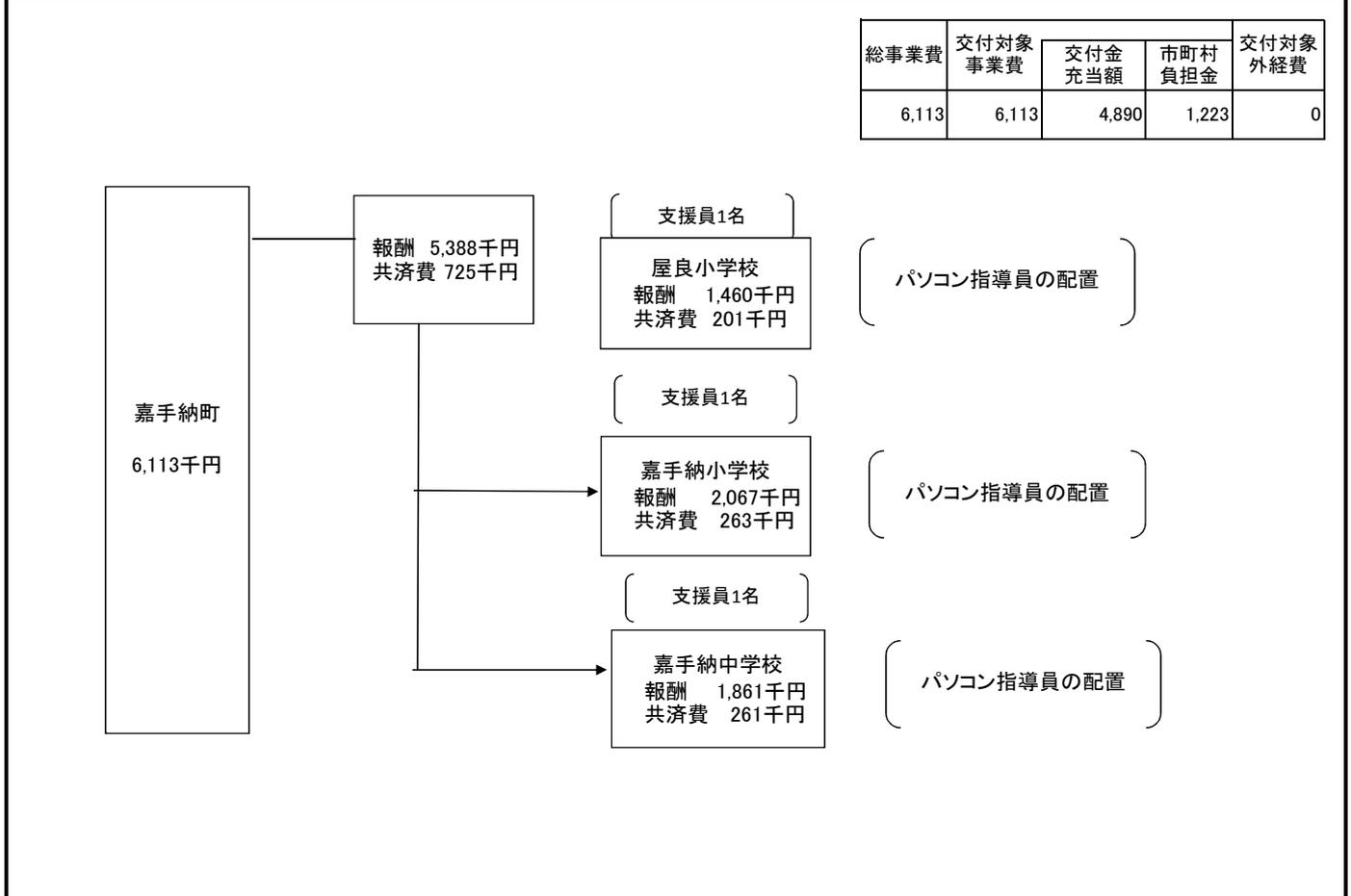
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>小学校のパソコン授業において、低学年では機器操作に主眼を置いて授業を展開しているが、高学年ではパソコンのタイピングよりも、教科等の目的に応じた調べ学習や発表においてパソコンを活用している。そのため、高学年で「キーボー島」の検定の合格率が低くなっている。また、「キーボー島」の内容が、中学生や一般向けの合格状況に設定されているため、小学生段階では難易度の高い内容となっており、目標値の再考が必要である。</p> <p>中学校ではパソコン検定受験は増えつつあるが、まだ一部の生徒のみであり、今後は多くの生徒が受験できるように声かけが必要である。</p> <p>パソコン指導員の活用に関して、電子黒板の授業での活用について、指導員を講師として、学校内の職員研修で活用していくようにする。</p>	<p>児童生徒の情報活用能力の育成のために、ICT支援員を配置し、担任や教科担任の授業補佐、授業支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器操作について、教師の技能にばらつきがあるため、授業での活用を深めていく。</li> <li>教室で授業時にパソコン指導員を補助教諭として活用し、電子黒板等を利用した授業の改善強化に努める。</li> <li>「キーボー島」の児童の目標設定は妥当であるか検討する。</li> <li>パソコン授業の内容について技能習得と活用の面で分けて実施していく。</li> <li>パソコン検定の周知と対策講座の開設。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

平成28年度の事業においては、以下の点に重点的に取り組む。

- 指導員の活用に関して、学校内の研修において指導員を活用して研修をすすめるようにする。
- 情報教育担当教諭・ICT支援員の連絡会を開催し、授業補佐・授業支援状況、キーボード操作検定サイトやパソコン検定の進捗状況を確認して、各学校の取り組みについての情報交換を行う。
- 電子黒板の活用や効果的な授業展開についての研修を行う。
- 小学校においては、引き続き操作能力を高めるキーボード操作検定サイト(キーボー島)の各学年目標級を見直して取り組みを行う。
- 中学校においては、パソコン検定受験を促し、放課後の対策講座を開設し、合格率を向上させる取り組みを図る

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。</p> <p>○予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。</p> <p>○費目・用途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	不登校対策生徒指導支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
担当部課名	嘉手納町教育委員会 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	不登校の生徒に対応するため、継続的な支援活動を行う生徒指導支援員を中学校へ配置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	848	3,094	1,977	3,493	
		(b) 予算現額	848	2,461	1,977	3,128	
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 633	0	▲ 365	
		(d) 繰越額	-	-		-	
		A. 計 (b+d)	848	2,461	1,977	3,128	
	B. 執行済額		848	2,461	1,764	3,128	
	うち交付金充当額		640	1,940	1,411	2,502	
	次年度繰越額		-	-	-	-	
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	89.2%	100.0%	
<b>予算の状況の説明</b>		不登校対策生徒指導支援員を本町内中学校に2名配置し、報酬と社会保険料をそれぞれ12ヶ月分執行している。-365千円の不用額は、当初週5日勤務で見込んでいた報酬が週4日となった残額である。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	<b>生徒指導支援員配置数</b> 中学校2人	目標	( 中学校2人 )	( 中学校2人 )	( 中学校2人 )	( 中学校2人 )	
		実績	中学校2人	中学校2人	中学校1人	中学校2人	
			目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
<b>達成状況説明</b>	中学校へ2名の指導員を配置し、生活リズムを崩れた不登校生徒へ服装指導や悩み相談を実施して、学級での授業が受けられるように支援を行った。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	<b>不登校生徒数を全生徒数の4.0%以下にする</b>	目標	( )	( 3.3%以下 )	( 3.3%以下 )	( 4.0%以下 )	( )
		実績		5.10%	4.00%	3.63%	
			目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
	<b>進捗状況説明</b>	生徒とのコミュニケーションを図り、不登校の早期発見・早期対応として、生徒の家庭訪問や巡回指導を行うことで、教師の目の行き届かないところへの支援ができていますが、すべての不登校生徒をカバーしきれていない。不登校生徒数をさらに減少させる。					

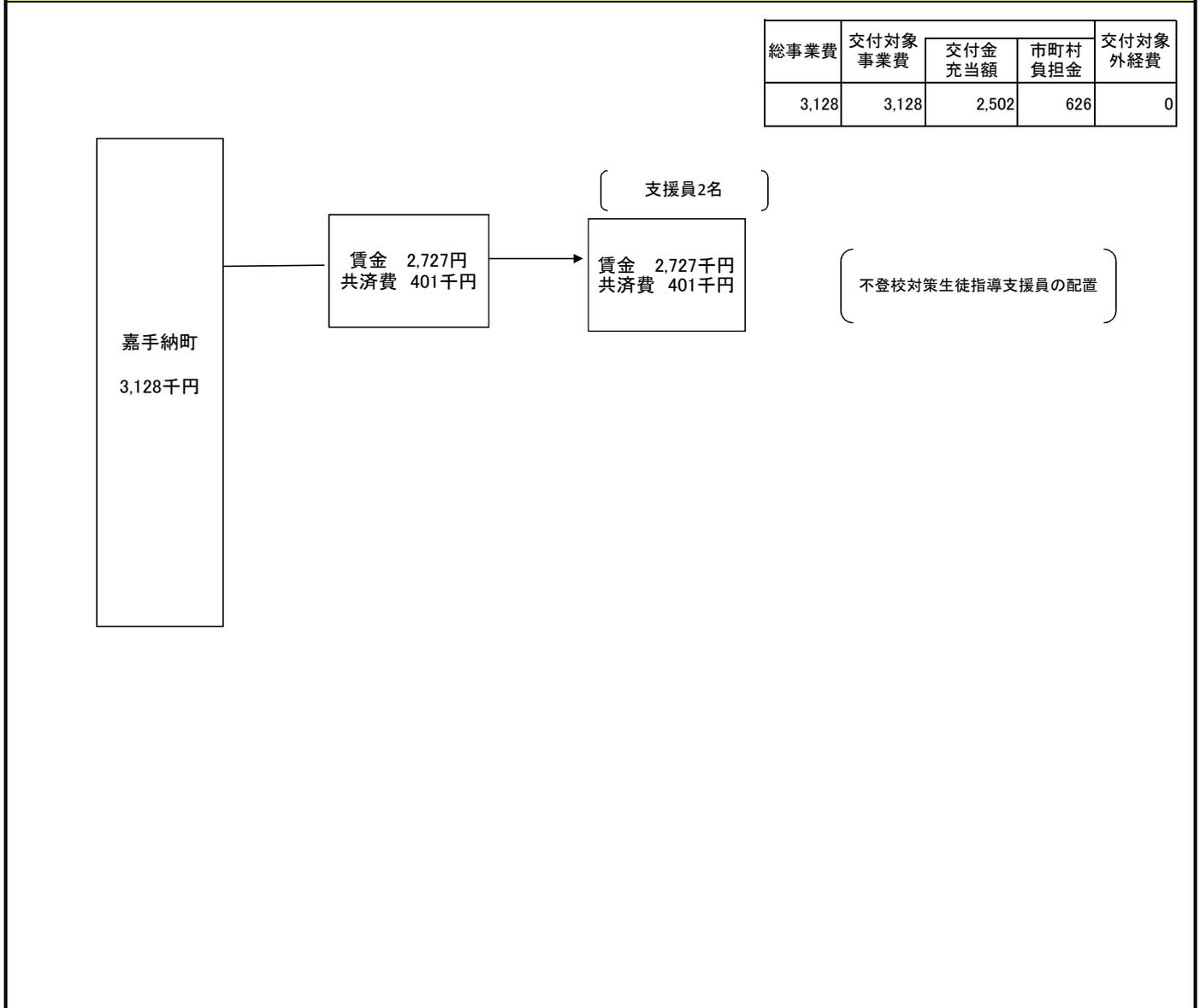
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>平成27年度の生徒指導補助員の活動の課題としては、すべての不登校生徒をカバーできていない状況がある。早期発見・早期対応の観点から、担任と連携を図り、行動面や欠席の状況から家庭訪問を実施したり、無届欠席3日連続の生徒宅への訪問により、無届欠席30日未満に取り組むよう活動していく必要がある。</p> <p>また、保護者においては、生徒指導補助員を学校の職員としてとらえておらず、部外者とする方もいる。周知をしていく必要がある。</p>	<p>課題の改善の方向性として、以下の点より推進していく。</p> <p>①生徒指導補助員の活動について、全職員で確認し連携を深めていく。</p> <p>②欠席や問題行動の初期での対応について、担任と生徒指導補助員とで確認を行う。</p> <p>③校長だよりやホームページ等で生徒指導補助員の存在や役割について周知を図っていく。</p>

**今後の取り組み方針**

平成28年度事業は以下の点を重点的に取り組む。

- ・時差登校や服装指導の生徒に対して寄り添い指導を行っていく。
- ・不登校生徒への対応として、生徒指導担当と連携を図りながら、各関係機関(町子ども家庭課、町障害福祉課、児童相談所、青少年センター等)とも連携して取組を行う。
- ・即対応で、機敏に動いて生徒の非行、問題行動の未然防止に努めるようにする。
- ・不登校生徒、保護者との連絡を取り、つながりを保持するようにする。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支援員は嘉手納町臨時職員管理規程に基づき採用した。</p> <p>○予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。</p> <p>○費目・用途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤	スクールカウンセラー活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	嘉手納町教育委員会 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成25年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	青少年センターにスクールカウンセラー(臨床心理士)を配置し、児童生徒と保護者の相談業務を行い、教職員に対しては障害等への対応に関する研修会を実施する。また、適応教室相談員に助言や児童生徒のカウンセリングを通して学校復帰を支援する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,592	2,592	4,954		
		(b)予算現額	2,556	2,556	4,973		
		(c)増減額(b-a)	▲36	▲36	19		
		(d)繰越額	-	-	-		
	A. 計(b+d)		2,556	2,556	4,973		
	B. 執行済額		2,556	2,556	4,973		
	うち交付金充当額		2,000	2,000	3,978		
	次年度繰越額		-	-	-		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		臨床心理士を雇用し、時給3,000円にて1日6時間の勤務。勤務時間の増。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	スクールカウンセラー配置数:1人	目標	( 1人 )	( 1人 )	( 1人 )	( )	
		実績	1人	1人	1人		
		目標	( )	( )	( )		
		実績					
達成状況説明		青少年センターにスクールカウンセラー(臨床心理士)を配置し、児童生徒と保護者の相談業務を行い、児童生徒の行動観察や児童生徒の支援体制を検討を実施。適応教室の児童生徒においては、適応教室相談員に対する助言や直接のカウンセリングを行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	サポートした児童生徒等の学校生活への適応や学校復帰等改善が確認できた人数:3人	目標	( )	( 10人 )	( 3人 )	( 3人 )	( )
		実績		3人	23人	27人	
			目標	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の行動観察を行い、保護者と学校と連携し対応策を話し合うことで、校内での支援体制を検討実施することができた。</li> <li>カウンセリングにて心理的教育を行うことで、児童生徒や保護者の行動が変容した。</li> <li>支援方法に行き詰まりを感じている児童生徒に関しては、保護者の了解の下、発達検査の実施し、具体的な支援方法を模索することができた。支援を実施することで子どもの学習面や行動面で良い変容が見られた。また検査結果から、子どもの特性が理解しやすくなり、保護者や担任の負担軽減につながった。</li> <li>受験を控えた中学3年生の不登校生徒に対しては、学校と密に連携を図り、部分登校に繋げることができ、高校受験することができた。</li> <li>他機関と連携し家庭訪問を行うことで保護者と信頼関係ができ、保護者の相談機関の一つとなった。</li> <li>相談対象者や家庭との連携が難しく、面談が継続しなかったため、面談が行った後の状況が把握できなかったケースがある。</li> </ul>					

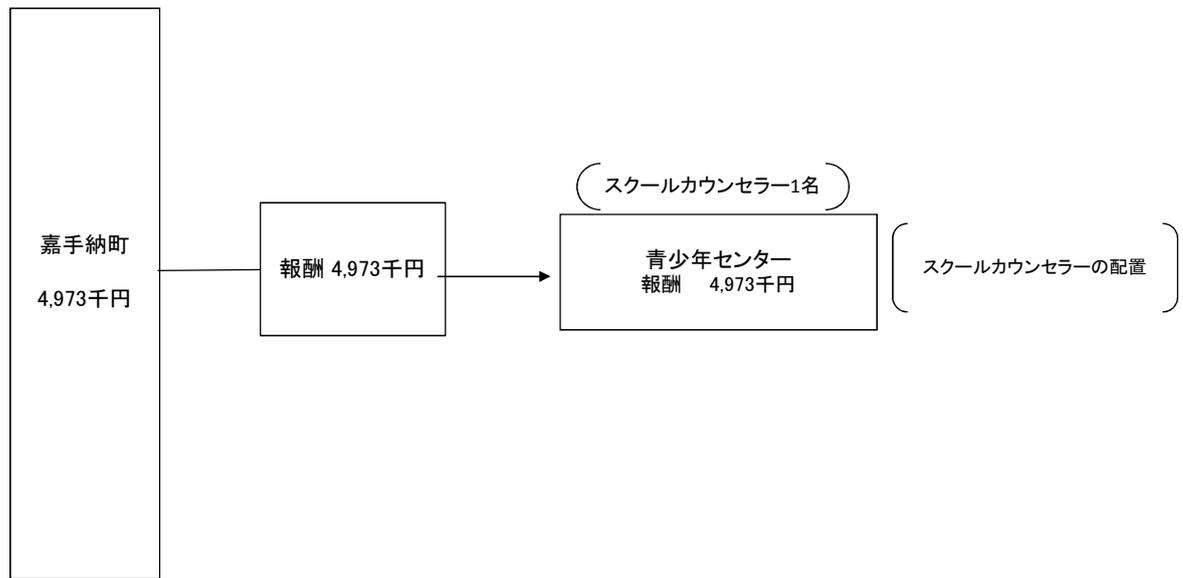
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	平成27年度の不登校児童生徒は、小学生が0、中学生が18人となっている。内訳は、中学1年生2名、2年生4名、3年生12人である。18名のうちふれあいスクールに在籍している8名の生徒が受験生という状態であった。この状況から、進学に対する不安、受験に対する学力の不安などがあり、情緒不安の状態であると考えられる。今後も、学力に対する不安、友だちとの関係での不安で不登校に陥る児童生徒が出てくる可能性がある。	町内の児童生徒へのサポート体制構築として以下の点から改善を試みる。 ①学力についての不安を取り除くサポート。 ②進学、将来に対する不安へのサポート。 ③発達障がいなどの要因での不登校へのサポート。 ④友人関係や人間関係での不安に対するサポート。

**今後の取り組み方針**

充実した教育相談活動を実施するため、平成28年度は以下の点から取組を行っていく。  
 ①学力についての不安を取り除くサポートとして、各学校の定期訪問や要請訪問を活用して、学力に不安を抱える児童を小学生の間で対応するよう、学級担任と連携して相談業務を実施する。  
 ②進学、将来に対する不安へのサポートとして、上記同様訪問相談を実施して取り組む。また、キャリアカウンセリングを実施し、なりたい自分、なれる自分をイメージできるような支援を行っていく。  
 ③各学校のサポーターと連携し、研修を深めながら発達障がいを抱える児童生徒への対応を丁寧に行っていく。  
 ④電話相談、窓口相談等も充実させ、困り感を抱える児童生徒、保護者へ幅広く対応していくようにする。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,973	4,973	3,978	995	0



資金の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町嘱託員設置要綱に基づき採用した。 ○予算は嘉手納町特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例施行規則に基づき計上されており、適正であった。 ○費目・用途については、報酬と共済費のみであり、支援員配置事業に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥		秋田交流学習体験事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
	担当部課名	嘉手納町教育委員会 教育指導課		事業実施(予定)年度	平成26年度～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力をつける教育の推進 Ⅲ-3-(1)
事業内容	教育先進地である秋田県大館市へ小中学生・教師派遣し、小中学生は、授業を通して学習規律、授業への参加する準備・備えを体験し、教師は、指導法や授業作りについて学ぶことで本町の学力向上を図る。また、秋田県の教師を招聘し授業の実践や授業改革等の研修を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	3,443	3,985			
		(b)予算現額	3,443	2,862			
		(c)増減額(b-a)	0	▲1,123			
		(d)繰越額	-				
	A. 計(b+d)		3,443	2,862			
	B. 執行済額		3,077	2,862			
	うち交付金充当額		2,461	2,289			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率(%) (B/A)		89.4%	100.0%			
予算の状況の説明		委託料を入札にて執行。不用額は、1,123円の入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
	授業規律の確立	目標	( 児童生徒及び教諭の派遣 )	( 実施 )	( )	( )	
		実績	児童生徒及び教諭の派遣	実施			
	積極的授業参加(発言、発表回数の増加を図るための指導法の充実)	目標	( 児童生徒及び教諭の派遣 )	( 実施 )	( )	( )	
		実績	児童生徒及び教諭の派遣	実施			
	各校における報告会の実施	目標	( 児童生徒及び教諭の派遣 )	( 実施 )	( )	( )	
		実績	児童生徒及び教諭の派遣	実施			
	報告書の作成	目標	( )	( 実施 )	( )	( )	
		実績		実施			
	達成状況説明	小中学生20名・教師9名を秋田県へ派遣。3日間授業を体感し、学びを生かし、各学校へ伝達。アンケート結果によると小学校、中学校とも学校の授業について「わかりやすい」「楽しい」「みんなが意見を出し合い、皆が自分の意見を認めていると思う」との質問項目で、7月と12月の調査で変容を比較するといずれもよい方向で伸びている。秋田の授業が教師の指導と児童生徒の学習に対する意欲に波及している。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	交流後の報告会、公開授業後に意識調査を実施し、授業改善・指導法の工夫を図っている教師の割合	目標	( )	( 小学校37% 中学校26% )	( 60%以上 )		( )
		実績		小学校34.5% 中学校31.5%	66%		
	アンケート調査で「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」で「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合	目標	( )	( )	( 小学校50% 中学校55% )		( )
		実績			小学校59.6% 中学校48.7%		
	進捗状況説明	秋田県へ児童生徒20名、教師9名を派遣し、学習方法の習得に取り組んだ。習得した学習技法などを実践、報告を行なった。各学校では報告書を作成し、学力向上推進報告会において、派遣された児童生徒、教師の関係者を招いて実践報告を行った。また、派遣された児童生徒は、持ち帰った内容を学校朝会などを通し広く啓発及び周知した。教師は、秋田の授業を意識することで改善がはかれた。小学校児童は、周知活動を通し、啓発され、自分の考えを発表することができた。中学校では、指導や周知活動が意識を改善できる量には至らず、自分の意見を発表できるまでの力を十分に身につけることができなかった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>平成27年度実施した秋田県大館市との学習体験事業において、嘉手納町で勤務する教職員の授業における課題が明らかとなった。課題として、以下の点があげられる。</p> <p>①秋田県の教師の比べて説明時間が長く、児童生徒が聞いてばかりの授業が多い。</p> <p>②45分・50分で授業が完結せず、時間を延長している。</p> <p>③教材研究において、児童生徒の活動が中心となっていない(説明中心)。</p> <p>④児童生徒が話したり、説明したりする時間が短い。</p> <p>⑤児童生徒の発表が単語で終わる場面がある。</p>	<p>秋田県大館市で勤務する先生の事例を基に課題の改善に取り組む。</p> <p>①授業で教えたいことを、重要事項として1つに絞る。</p> <p>②45分・50分授業の構想をしっかりともつ。</p> <p>③児童生徒一人一人をイメージした授業計画。</p> <p>④言語活動を重視する。</p> <p>⑤言葉、文節を使用して発表するようにする。</p>

**今後の取り組み方針**

平成28年度は、以下の点を重点的に取り組む。

①授業の「ねらい」を児童生徒に身につけたい知識・技能として、授業を構想する。

②完結型授業をめざす。そのためには、板書計画、発問を吟味して授業案を作成する。

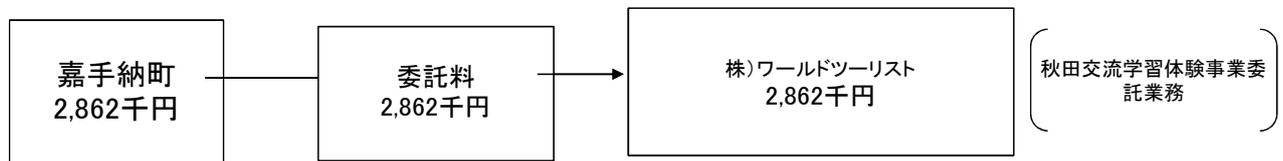
③児童生徒の活動を中心として授業を構成するため、教師の発問に対して、誰が答えて、答えられない子にはどう対応するか、グループでの活動で誰が引っ張ってくれるのかをイメージして授業を作る。

④すべて説明を教師がするわけではなく、児童生徒に説明させたり、話し合いをさせたり、教え合い、学び合いを実施したりと授業形態を様々用意して、「話す」活動を重視して授業を作っていく。

⑤文章の型を示して、文章で返答することを児童生徒に意識させて、文章で会話する経験を積むようにする。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
2,862	2,862	2,289	573	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託業者は入札により選定している。</p> <p>○予算規模は業者より見積を徴し、計上したものであり、適正である。</p> <p>○費目・使途は事業目的に即し、移動や宿泊等の必要なものに限定されている。</p>
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑦		学校ICT機器整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
	担当部課名	嘉手納町教育委員会 教育指導課		事業実施(予定)年度	平成26年度～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力をつける教育の推進
事業内容		ICTの活用を図り、魅力的でわかりやすい授業展開・効率的な知識の習得に繋げるため、デジタル教科書を整備し学習意欲の向上に資する。					Ⅲ-3-(1)
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	59,613	3,866			
		(b) 予算現額	33,067	3,551			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 26,546	▲ 315			
		(d) 繰越額	-	-			
		A. 計 (b+d)	33,067	3,551			
	B. 執行済額		33,067	3,551			
	うち交付金充当額		26,453	2,840			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		入札による予算執行、事業内容は、すべて実施した。不用額315千円は、入札の残額によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	デジタル教書整備実施整備学年:小学校1年～6年(書写含む)、算数、理科、社会(地図含む)、音楽小学校1年～2年(生活科)学年数2校	目標	( 電子黒板64台 実物投影機55台 )	デジタル教科書整備実施予定			
		実績	電子黒板64台 実物投影機55台	デジタル教科書整備実施			
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	町立小学校2校にデジタル教科書を全学年に国語、算数、社会、理科、音楽、書写を導入、1、2年生には、生活科を加え、授業で活用実施。教師が各教科で児童生徒のわかりやすい授業に重点を行えた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	アンケートで「授業がわかりやすくなった」と答えた生徒の割合	目標	( )	( 整備率100% )	( 65% )	( )	( )
		実績		整備率100%	93.60%		
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	日常的なICT機器を活用する授業を展開。授業の中でクラス全員で視覚的に確認をして、言葉だけでない授業が行えた。その結果、わかりやすいと認識した児童生徒が増えた。3月にアンケートを実施、「学校の授業はわかりやすく、楽しいと思う」との結果が得られ、学習意欲を伸ばした。					

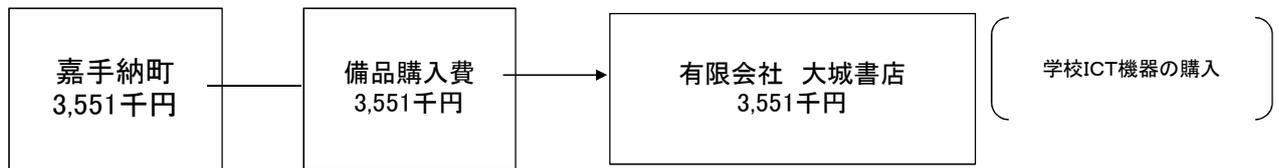
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	平成27年度町内の小学校にデジタル教科書を導入し、児童生徒の学習意欲は向上している。残り7%の児童生徒に対して、さらに理解を促すために、以下点に留意する。 ①デジタル教科書で説明したつもりになっていないか。 ②デジタル教科書をわかりやすく提示してだけの活用になっていないか。 ③授業展開に即した、デジタル教科書の効果的な活用。	デジタル教科書導入の意図は、授業のわかりやすさが中心であり、効果的な活用が必要になる。そこで、以下のように改善に向けていく。 ①授業展開に応じてデジタル教科書活用を構想する。 ②見せるだけでなく、触る、操作する活用を構想する。 ③活用について研修を深める。

**今後の取り組み方針**

今後のデジタル教科書の活用については、以下の点から取り組んでいく。  
 ①説明するポイントを絞って、拡大して見せる場面を構想して、授業を細かく計画していく。  
 ②見せるだけでなく、操作する、児童生徒が示して発表する、児童生徒が発表する等の幅広い活動に活用する。  
 ③画像の一部だけを見せる、遠目から全体像を見せるなど、授業のめあてに沿った活用を、研修を深めながら、充実させる。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,551	3,551	2,840	711	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○購入業者は入札により選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算は業者より見積を徴し、決定した。不用額が26,546千円となっているが、入札残によるものであり予算規模は適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途はICT機器購入事業の目的に沿った支出であり適正であると考えられる。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

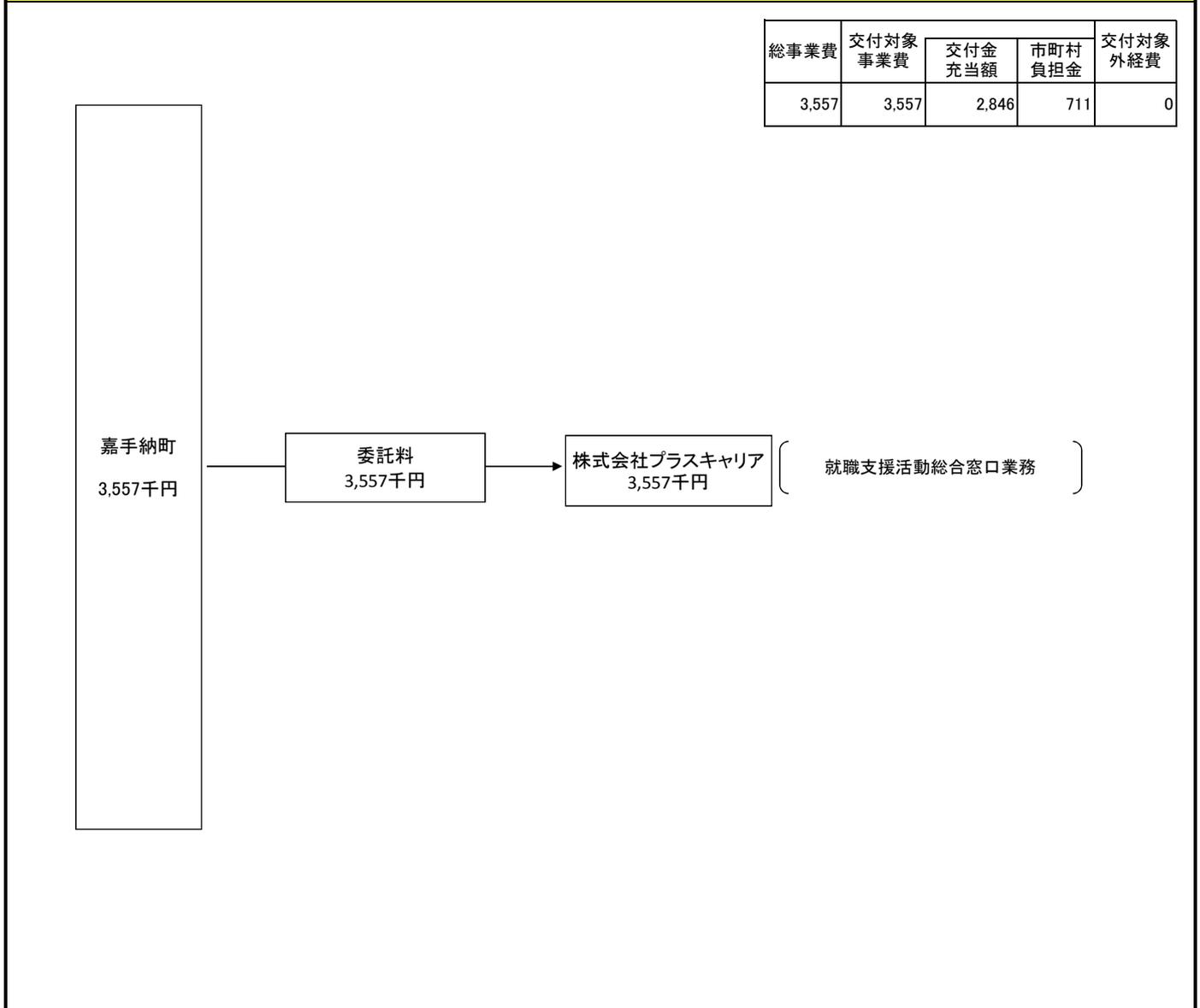
市町村名		嘉手納町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	雇用促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア	
	担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度	平成25~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	雇用機会の創出・拡大と求職者支援 Ⅲ-2	
事業内容	全国に比べ失業率の高い沖縄において雇用情勢の改善を図るため、就職相談窓口を開設する。就職相談窓口により求人・求職者を結び就労支援を行い、求職者へ就職意識の高揚と事業者の雇用拡大に繋げていく。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	3,633	3,864	3,864		
		(b)予算現額	3,633	3,864	3,557		
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲307		
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	3,633	3,864	3,557		
	B.執行済額		3,632	3,838	3,557		
	うち交付金充当額		2,905	3,070	2,846		
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.3%	100.0%		
予算の状況の説明		積算誤りによる契約金額の変更及び台風8号の影響によりセミナーの開催を見送ったため、セミナー講師の出勤日数が減となった。(不用額31千円)					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	相談窓口開設(毎週火・金曜日)	目標	( 99日 )	( 98日 )	( 97日 )	( )	
		実績	99日	97日	97日		
	セミナーの開催(毎週金曜日)	目標	( 49回 )	( 51回 )	( 50回 )	( )	
		実績	49回	51回	49回		
達成状況説明	相談窓口については97日開所した。また、セミナーについては、台風の影響により中止したため、49回の開催となった。相談窓口とセミナーを開催することによって、求職者への就業に関する教育等が図られ、就業促進に結びつくことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	相談人数:100人	目標	( )	( 相談人数 200人 )	( 相談人数 200人 )	( 相談人数 100人 )	( )
		実績		185人	399人	230人	
	就職人数:2人	目標	( )	( 就職人数 30人 )	( 就職人数 50人 )	( 就職人数 )	( )
		実績		23人	46人	9人	
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き相談窓口の開所とセミナーを開催する。</li> <li>相談人数の数値は目標を超え達成することができた。また、全体の相談人数のうち町民は230名相談に来ている。</li> <li>相談窓口は予定していた回数全て開催することができたが、セミナーは、台風により1日開所した。</li> <li>セミナー参加者は全体で222名うち町民が54名参加している。</li> <li>就職人数は全体で26名うち町民が9名就職している。</li> </ul>					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	平成27年度も継続して、全国に比べ失業率の高い沖縄において雇用情勢の改善を図るため相談窓口の開所およびセミナーの開設を行った。	求職者と企業側のニーズを把握・分析し、双方に起きているミスマッチを減らすようセミナーの内容を検討する必要がある。
	前年のアンケート調査の結果を基に、新たな取り組みとしてセミナーの一部を企業説明会に変更したが、参加人数が少なかった。求職者の求めている企業の選定やニーズに合った説明会の内容に改善する必要がある。	求職者と事業所のミスマッチを改善する為に、より多くの求人情報を収集する必要がある。
	相談内容は仕事の探し方が分からないという相談が多く、求人と求職の斡旋を求める声もあった。本町としては現在、斡旋事業は行っていない。今後は、潜在ニーズを含め希望者の数を把握する必要がある。その上で斡旋事業の実施有無に関しても検討が必要である。	また、職を斡旋してほしいとの声があるため、求職者にアンケート調査を行い職あつせん希望者を把握する。
前年同様、求職者の生活環境が多様化しているため、求職者の就労に関するニーズと事業者の求人がミスマッチであることが今後も課題である。 また、求人を探す企業から求人の掲載についての問い合わせも増えている	より多くの求職者を支援するためにも、周知活動を引き続き行う必要がある。	

**今後の取り組み方針**

セミナー終了後に求職者が求めるセミナー内容についてのアンケート調査を行う。  
職あつせん希望者のアンケート調査を行う。  
今後も週2回の相談窓口及び週1回のセミナーを継続して行い、求職者の就労に関する悩みや共通して抱える課題を解決するための支援を行う。また、引き続きアンケート調査を行い、求職者のニーズの必要性を分析する。  
広報へのチラシ折込やハローワークでのチラシ設置など徹底した周知活動を引き続き図る。また、企業の求人情報を募集する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



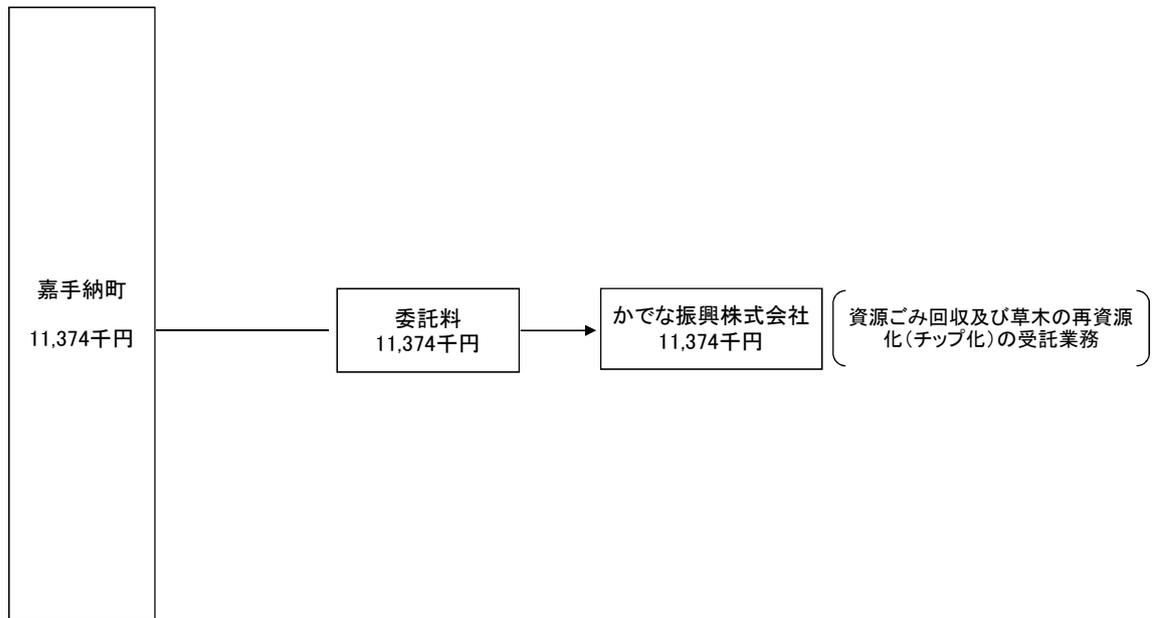
資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は、相談員が変わることで相談者の不安を増す恐れがあると判断し、前年度と同じ事業者と随随意契約を行った、なお、価格の妥当性を確認した結果、最低価格だったため妥当だと考える。 ○予算規模に関しては2社以上から見積もりを徴収し、比較検証し最低価格だったため妥当だと考える。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①		廃棄物リサイクル事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア	
	担当部課名	建設部 産業環境課		事業実施(予定)年度		平成25~33年度	3Rの推進
事業内容	本町で排出されている草木を回収、チップ化し再資源化することで、本町が策定する一般廃棄物処理基本計画の推進を図り、再資源化を促進しながら町全体の美化環境の保全を行っていく。					III-12	
						沖縄振興基本方針該当箇所	
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	16,072	50,214	15,491		
		(b) 予算現額	16,072	50,214	11,374		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 4,117		
		(d) 繰越額	-		-		
		A. 計 (b+d)	16,072	50,214	11,374		
	B. 執行済額		16,072	44,195	11,374		
	うち交付金充当額		12,857	35,356	9,099		
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	88.0%	100.0%		
予算の状況の説明		当初の予定の事業内容はすべて実施。不用額については新型のリサイクラー(草木粉砕用)を購入したため、当初予定していた燃費より、新型の機種による燃費実績が良かったためである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	1 木くずの再資源化(チップ化)	目標	( 木くずの再資源化 )	( 木くずの再資源化 )	( 木くずの再資源化 )	( )	
		実績	木くずの再資源化(チップ化実施)	木くずの再資源化(チップ化実施)	木くずの再資源化(チップ化実施)		
	2 木くず等の回収	目標	( )	( )	( 木くずを回収し廃棄物とせず再資源化をはかる )	( )	
実績				木くずの再資源化の為の回収			
達成状況説明	草木の回収をしチップ化することにより一般廃棄物の削減となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	ゴミの減量化(目標5%削減) 処理費の節減	目標	( 一般廃棄物処理量4,444tを基準とする減量化 )	( 一般廃棄物 約5%削減 )	( 一般廃棄物 約5%削減 )	( 一般廃棄物 5%削減 )	( )
		実績		草木の搬入量(60%減)	草木の搬入量(100%減)	( 一般廃棄物 6.4%削減 )	
	【参考指標】						
	平成27年度一般廃棄物量全体のうち再資源化を図った草木の量	目標	( )	( )	( )	( 草木の再資源化 )	( )
実績					草木の再資源化率 9.8%削減		
進捗状況説明	平成27年度の一般廃棄物量は4159tであった。基準となる平成24年度一般廃棄物量4,444tと比べ6.4%減量することができた。結果として一般廃棄物量の削減目標の5%を上回る結果となった。草木の再資源化においても、平成27年度一般廃棄物量全体における草木の量は412tあり、そのうちの410t(99%)にあたる量を再資源化することが出来た。結果として一般廃棄物処理量の9.8%にあたる量の削減が図られた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	草木をチップ化し町民へ提供することで、花や植栽の堆肥化及び、雑草防止のマルチング等で活用することで、町内の美化環境保全を行っているが、チップのすべてを提供できていない。 一般廃棄物の減量化においては、町民に対し、さらなるリデュース(ごみの排出抑制)への意識啓発に取り込む必要がある。	一般廃棄物処理量の減量化についてはリデュース(ごみの排出抑制)についての周知等の取り組みを行っている。併せてチップの提供についても、さらなる周知の強化を図る。
	<b>今後の取り組み方針</b>	
今後、広報及びホームページで、より一層、一般廃棄物処理基本計画に伴う、適正な廃棄物処理とチップの提供について周知を行う。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,289	11,374	9,099	2,275	2,914



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、随意契約であるが、長年本町のごみ回収業務を行っており、経年の処理技術及びデータを持っており組織、実績、知識等を勘案して妥当である。 ○予算規模については実績にかかる費用については、精算しており適正である。 ○費用・用途についても目標達成に必要なものなのか等について額の確定時において支出等の書類で確認しており、適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-① 嘉手納町防犯灯・街路灯LED化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(3)-ア		
	地球温暖化防止対策の推進		沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-10-(1)		
担当部課名	都市建設課		事業実施(予定)年度 平成26~29年度				
事業内容	低炭素島しょ社会の実現と自然豊かな環境に配慮した町づくりの推進を図るため、町内に設置されている水銀灯等の街灯のLED化事業を実施する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,297	35,000			
		(b) 予算現額	7,297	40,176			
		(c) 増減額 (b-a)	0	5,176			
		(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)		7,297	40,176			
	B. 執行済額		6,123	40,176			
	うち交付金充当額		4,898	32,140			
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		84%	100%			
予算の状況の説明		当初予算額では3,500(千円)(工事)であったが、目標の早期実施を図るため事業変更を行い予算5,176千円を増額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	防犯灯・街路灯500基のLED化	目標	( 防犯灯・街路灯の500基LED化 )	( )	( )	( )	
		実績	防犯灯・街路灯の500基LED化				
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	本事業は、町内に設置されている全ての水銀灯等の防犯灯・街路灯を低炭素島しょ社会の実現と自然豊かな環境に配慮した町づくりの推進を実現するため、平成27年度においては500基のLED化を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	平成26年度比で町内の防犯灯消費電力・CO2排出量の56%削減を目指す(防犯灯使用電力の発電に伴う沖縄電力のCO2排出量)	目標	( )	( 26年度比56%削減 )	( )	( )	( )
		実績		56%削減			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	防犯灯及び街路灯500基のLED化が完了し、本町のエコなまちづくりへのステップの1つが達成されたと考える。 整備事業が平成28年3月末まで要したため、成果目標の数値を整備後の平成28年4月の電力使用量を基に下記の新たな内容で算出した。 【算出方法】 既存防犯灯80w、100wでのCo2算出⇒277t/年 平成28年4月の電力使用量は下記の数値で算出 ・防犯灯20VAのCo2排出量1基あたり=60.13kg-Co2×500基=30t/年 ・既存防犯灯80w水銀灯Co2排出量1基あたり300.64kg-Co2×171基=51t/年 ・既存街路灯100w水銀灯Co2排出量1基あたり375.80kg-Co2×204基=76t/年 平成28年4月Co2排出量は合計で157t/年となることから、H26年度Co2排出量277t/年÷H28年度Co2排出量157t/年=Co2排出量56%削減					

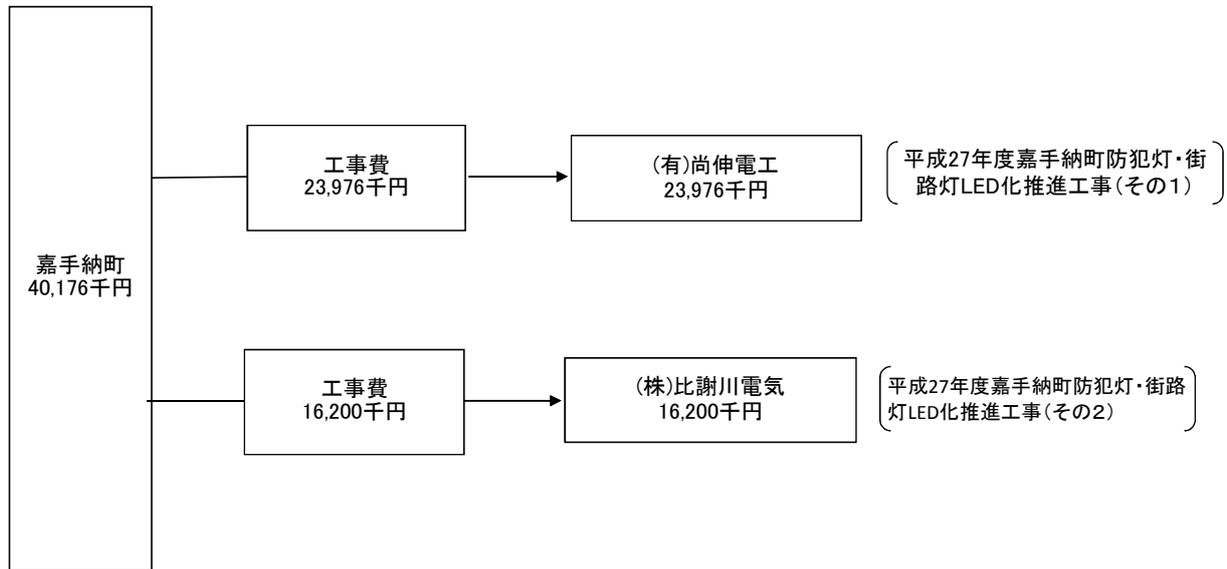
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯灯・街路灯のLED化設置500基を行うにあたり、先行して設置する箇所を検討した結果、教育関連施設周辺、児童生徒の通学路を中心に先行して設置する箇所を決定した。</li> <li>・工事発注前の設計書審査等に不測の日数を要してしまった。</li> <li>・設置工事に関しては高所での作業となるため安全管理に関しては安全第一での作業を指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の設置箇所の選定に関しては各自治会等と相談し、設置箇所の優先順位を決定する。</li> <li>・継続事業となるため次回の工事前の設計書審査等に関しては事前に準備をし、早期発注を目指す。</li> <li>・工事において安全第一にて施工を行うことを念頭に継続して安全管理に関しては厳しく指導していく。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・平成28年度以降も同様の工事を実施し、Co2排出を削減し、低炭素島しょ社会の実現と自然豊かな環境に配慮した町づくりの推進を実現するため実施していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
40,176	40,176	32,140	8,036	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事業業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○工事費においては標準積算基準書を準拠し、工事費を積算しているのが妥当だと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○不用額は事業費の1%以内であり適正な規模であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	嘉手納町
------	------

**平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	6-① 食育まんが啓発推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-ア
担当部課名	町民保険課	事業実施(予定)年度	平成26~28年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-4

**事業内容**  
 地域の高齢者から長寿といわれる戦前の食生活を聞き取りまんがを制作する。食育まんがを普及、啓発することにより長寿の知恵を次世代へ継承し、健やか長寿のまちかでの実現を図る。

**実施方法**  
直接実施    委託    補助    負担    その他 ( )

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	1,199	2,138			
	(b) 予算現額	1,199	2,138			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0			
	(d) 繰越額	-	-			
	A. 計 (b+d)	1,199	2,138			
	B. 執行済額	1,199	2,138			
	うち交付金充当額	959	1,710			
	次年度繰越額	-				
	執行率 (%) (B/A)	100%	100.0%			
	予算の状況の説明	当初の計画どおり期間内に事業が完了し、予算執行したため執行率100%となった。				

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
2作品制作	目標	( 1作品 )	( 2作品 )	( )	( )
	実績	1作品	2作品		
配布数3,000部/作品	目標	( 3,000部 )	( 6,000部 )	( )	( )
	実績	3,000部	6,000部		
達成状況説明	食育まんがを2作品作成(3,000部/作品)し、配布対象である町内認可保育園保護者から中学生まで全ての対象者に配布することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値 (25年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (28年度)
			「食育の日」の認知度(保育所保護者アンケート)	目標	( 7.7% )	( 増加 )
	実績		15.4%	10.1%		
【参考指標】 食育の言葉と意味を理解している者の割合(保育所保護者アンケート)	目標	( 52.4% )	( 増加 )	( 増加 )	( )	
	実績		57.7%	59.0%		
【参考指標】 次世代に伝えたい郷土料理等があり、実際に伝えている者の割合(保育所保護者アンケート)	目標	( 16.2% )	( 増加 )	( 増加 )	( )	
	実績		18.8%	21.3%		
進捗状況説明	相対的にみる指標として、保育所保護者へのアンケートを参考指標とした。その結果、「食育の日」の認知度は目標を下回ったが、「食育の言葉と意味を理解している者の割合」は増加した。昨年度制作のまんがでは、裏表紙に「食育の日」を周知する記事を掲載していたが、今年度は内容を充実させた分、「食育の日」周知記事は掲載していなかったことが影響したと考えられる。また、継続して郷土料理のレシピを掲載していることで、「次世代に伝えたい郷土料理があり、実際に伝えている」と回答した者が徐々に増加していると考えられる。今後も食育まんがを普及啓発し健康的な郷土料理を伝承し食生活の意識向上を図る。					

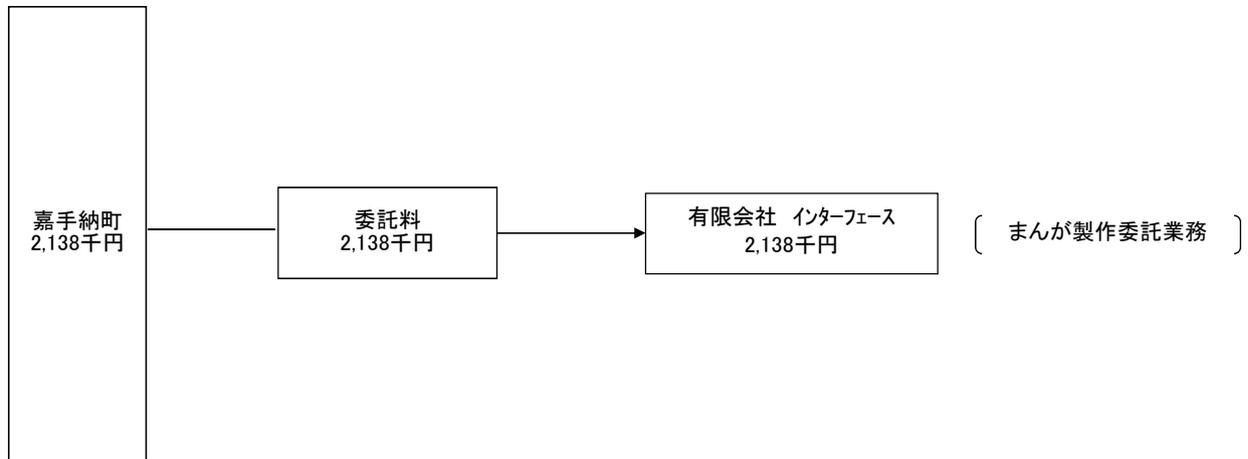
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	1作品目は甘藷を全国へ広めた嘉手納町の偉人、野國總管と甘藷を題材とし、2作品目は沖縄県で昔から無駄なく食されてきた豚を題材に取り上げ、昔と今の食について考えるきっかけとなるよう工夫し制作した。	町内に実在する人物をモデルに、その人物に会える機会を設けるなどして、まんがと現実を結びつけ行動変容につながる工夫を考える。
	健康的な食生活の習得には、単発の事業実施ではなく継続的な取組みが必要である。	次年度もまんがを制作しシリーズとして認識してもらえるよう工夫する。
	まんがの普及啓発だけでは長寿の知恵を継承できるとは限らない。	まんがの普及啓発に加え、自身の課題として捉えられるような事業展開が必要である。まんが制作の際にも身近に課題解決しやすい構成を工夫する。

**今後の取り組み方針**

食育に関する課題は多岐にわたることから、さまざまな視点から地域の現状を取り上げ課題解決につながるまんがを制作する。対象者がシリーズとして認識できるようこれまでの作品との関連を持たせるなどの工夫をする。また、まんがの普及啓発に加えまんがを媒体に食育講座や調理実習、町関連事業等に活用する。制作の際には読むだけでなく、自身の課題として捉えられるよう自身の状況を記入する欄を設けるなど工夫しより身近に課題解決できる構成とする。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,138	2,138	1,710	428	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○公募型プロポーザル方式により民間業者より選定し随意契約した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は2社から見積りを徴し、比較検討したため適正な規模と考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-① 嘉手納町密集市街地地区改善事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-2-(4)-イ		
	都市建設課		事業実施(予定)年度 平成27~29年度		災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
担当部課名			沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-10		
事業内容	本町は、町の総面積が15.12kmあるが、町域の約82%を米軍基地に接収され、残された18%の狭隘な地域での生活を余儀なくされている。市街地については、沖縄戦後の混乱期から住宅や商店、事務所、工場等が混在立地し、今日の狭隘、無秩序な市街地が形成されてきた。そのため、狭隘道路問題をはじめ接道要件を満たさない建物や消防困難区域もあり、様々な問題を抱える密集市街地となっている地区もある。本事業では、この密集市街地地区において土地所有者・家屋所有者・居住者等と協働し地区整備の方向性を定め整備することを目的とする。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	11,189				
		(b) 予算現額	10,292				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 897				
		(d) 繰越額	-				
		A. 計(b+d)	10,292				
	B. 執行済額		10,292				
	うち交付金充当額		8,233				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画通りに執行した。</li> <li>・当初予算額は、11,189千円であったが、入札残により不用額897千円が発生した。</li> <li>・履行期間中における変更等もなく、また出来高不足もなかったことから当初契約額と変更なしで精算した。</li> </ul>					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	・地区のまちづくりの方向性の検討	目標	( まちづくりの方向性の整理 )	( )	( )	( )	
		実績	まちづくりの方向性の整理				
	・まちづくりの推進に向けた課題整理 地域懇談会 1回 アンケート1回 まちづくりニュース発行3回程度	目標	( 課題整理の実施 )	( )	( )	( )	
		実績	課題整理の実施				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域懇談会等での意見交換や関係権利者の個別意向等を踏まえた整備計画(案)を検討した。</li> <li>・整備計画を円滑に実行するため、関係機関や関連団体等に対してヒアリングを実施した。</li> <li>・地域懇談会については、当初1回の予定だったが、権利区分(建物・土地・居住)ごとに立場が異なるため、同じ場での意見交換が難しかった。このため、権利区分を分けて6回開催した。</li> <li>・まちづくりニュースの発行は当初1回の予定だったが、懇談会の結果等を周知するため4回発行した。</li> <li>・最終検討結果を周知するため、オープンハウスを開催した(2日間1回)</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	・権利者(居住者・地権者)個別カルテの作成(50%)	目標	( )	( 50% )	( )	( )	( )
		実績		62.8%			
	・地元組織(まちづくり協議会)発足のための合意形成(10%)	目標	( )	( 10% )	( )	( )	( )
		実績		62.8%			
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備計画(案)を作成したことで、次年度業務の課題点を明確にすることができた。</li> <li>・関連する事業者へのヒアリングを実施することで、今後整備する際に留意すべき事項を把握するとともに、事業推進に関して協働で検討していく可能性を探ることができた。</li> <li>・地元組織発足のための合意形成は当初予定では10%だったが、個別ヒアリングを実施できた関係者の全員から合意を得ることができたため、62.8%の進捗となった。また、土地所有者及び建物所有者から、それぞれ3名ずつ地元組織への参加の同意を得ることができた。次年度以降は、参加の同意を得た関係者を中心に地元組織を発足し、引き続き住民への意識醸成を図っていく。</li> <li>・権利者個別カルテの作成は当初予定では50%であったが、権利者に合わせた日程でのヒアリングをすることで、62.8%実施できた。これにより、将来の資産活用意向や、家族関係などの情報を把握できた。</li> <li>・まちづくりニュースを配布することで、関係権利者への計画等の周知と事業化への意識高揚を図ることができた。</li> <li>・オープンハウスを実施することにより、本地区の関係権利者をはじめ、嘉手納町民全体に対して情報発信をすることができた。</li> </ul>					

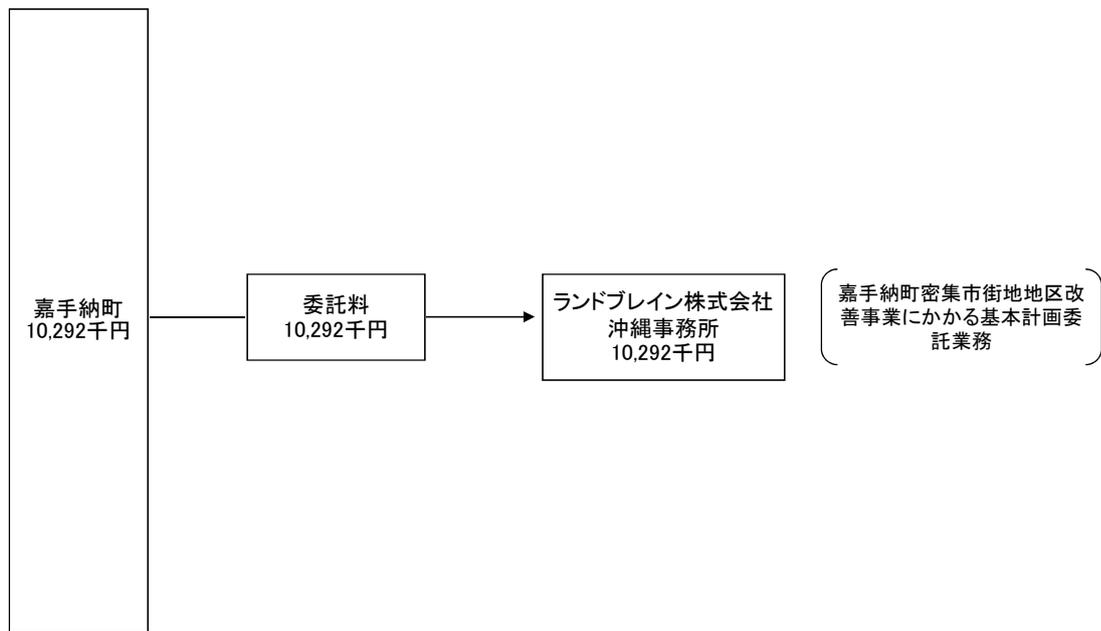
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内には低所得者の高齢者世帯もあり、これまで低地代や低家賃で地区内に居住している。事業化に伴い、町営住宅並みの家賃が発生すると、生活が困窮することが懸念される。</li> <li>・これまでの地域懇談会等により、関係権利者はまちづくりの必要性を認識しているが、生活の変化に対する抵抗が強いため、事業実施後の生活がどのようなになるのか意識できる取り組みが必要となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低所得世帯については、都市再生住宅の先行的建設や家賃緩和策等を講じるなど、生活再建を検討していく必要がある。</li> <li>・事業実施後の生活をイメージしてもらうため、補償費や家賃などの経済的な判断材料について情報提供する事が求められる。また、共同住宅での生活をイメージしてもらうため、先事例の視察等を行いながら、メリットやデメリットを十分に説明し、安心して判断できる条件を示す必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

平成27年度の成果をもとに、整備計画について地域住民及び関係権利者の合意形成を更に進めるため、地元のまちづくり検討組織の設立支援及び検討・合意形成活動支援を行う。また、個別訪問や説明会等の開催による関係地権者への周知・意見集約を行う。さらに、まちづくり相談室を開設し、生活再建に関する相談や事業化に向けた取組みを進める。それらで集約できた意見を踏まえ、事業化の方向性(事業区域、事業手法、事業主体等)を決定する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,292	10,292	8,233	2,059	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法に関し、指名競争入札により決定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	県内において、まちづくり計画の実績を有する業者を指名し入札に付したことにより、同等程度の実力の業者間で価格競争が促されたことにより、事業遂行能力及び経済性をも勘案した内容での発注ができた。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算規模については、執行率90%以上であり適正な規模であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目及び用途については、嘉手納町密集市街地地区改善基本計画策定業務を実施するうえで、事業目的に沿った支出であり適正であると考えられる。

市町村名		嘉手納町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	8-① 嘉手納町住環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-2-(6)-ア			
	都市建設課		事業実施(予定)年度 平成27~28年度		地域特性に応じた生活基盤の整備			
担当部課名			沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-10			
事業内容	本町は、町の総面積が15.12kmあるが、町域の約82%を米軍基地に接収され、残された18%の狭隘な地域での生活を余儀なくされている。市街地については、沖縄戦後の混乱期から住宅や商店、事務所、工場等が混在立地し、今日の狭隘、無秩序な市街地が形成されてきた。そのため、新たな住宅・宅地の確保が難しくなっている。本事業では、住環境を改善するため、本町に必要な住宅政策を把握し、本町の状況に特化した効果的かつ実効性のある制度の確立及び推進を図る。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	13,490					
		(b) 予算現額	13,413					
		(c) 増減額(b-a)	▲77					
		(d) 繰越額	—					
		A. 計(b+d)	13,413					
	B. 執行済額		13,413					
	うち交付金充当額		10,730					
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画通りに執行した。</li> <li>・当初予算額は、13,490千円であったが、不用額7.7千円が発生した。</li> <li>・履行期間中における変更等もなく、また出来高不足もなかったことから当初契約額と変更なしで精算した。</li> </ul>						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
	・住民意向調査(町内全域)	目標	( 住民意向調査の実施 )	( )	( )	( )	( )	
		実績	住民意向調査の実施					
	・現地・現況調査(町内全域)	目標	( 現地・現況調査の実施 )	( )	( )	( )	( )	
		実績	現地・現況調査の実施					
	・課題の整理	目標	( 課題の整理 )	( )	( )	( )	( )	
		実績	課題の整理					
	達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本町の現況・課題等を把握するため、現地・現況踏査・これまでの町の取り組み等について検証等を行った。</li> <li>・住環境に対する意向を把握するため、町内全世帯及び移住希望者等を対象にアンケートを実施した。</li> <li>・制度策定への基礎資料として、調査結果等を取りまとめ課題整理を行った。</li> </ul>						
	成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
		・本町の現況・課題の把握	目標	( )	( 現況・課題の把握 )	( )	( )	( )
実績				現況・課題の把握				
・本町における住宅政策の制度策定に向けた基礎資料の作成		目標	( )	( 基礎資料の作成 )	( )	( )	( )	
		実績		基礎資料の作成				
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地・現況踏査と併せて施策の検証等を行った結果、ハード・ソフトの両面から、本町の住環境における強みと弱みを抽出することができた。</li> <li>・町内全世帯及び移住希望者を対象にアンケートを実施した結果、今後の定住意向や住環境に関する評価、移住希望者が何を望んでいるのか等を把握することができた。また、町民アンケートにおいては、転出の要因等も抽出することができた。</li> <li>・課題整理を行うことで、解決の方向性を示すことができ、次年度の制度策定に向けた基礎資料を作成することができた。</li> <li>・次年度は、今年度の成果を踏まえ、制度策定を行う。</li> </ul>						

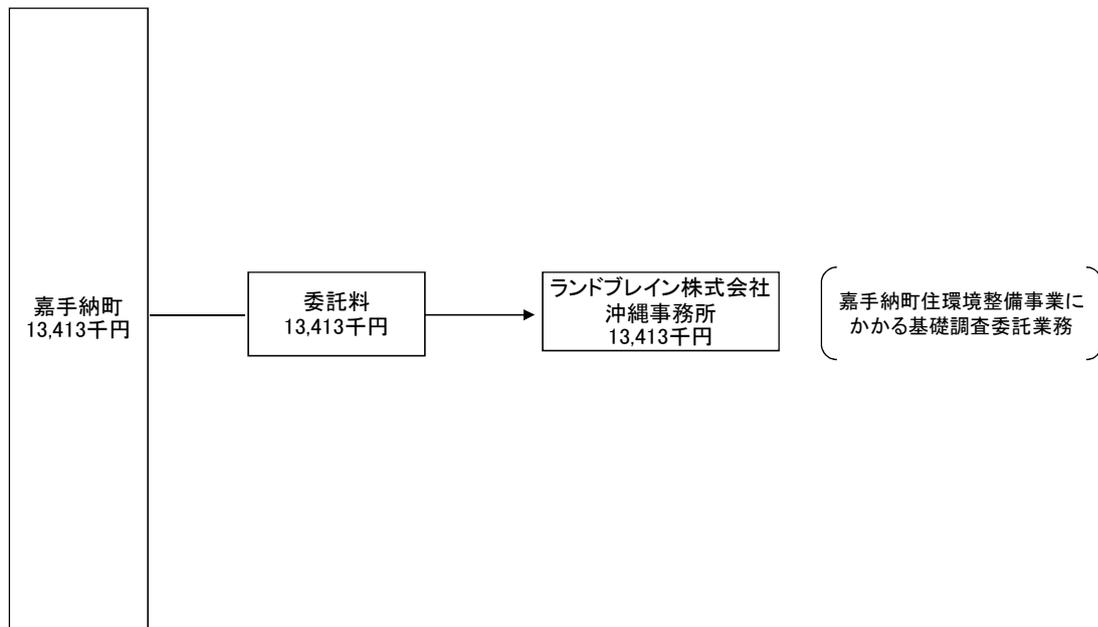
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地調査を行った結果、想定以上に空き家が多く点在していることが判明した。</li> <li>・調査から得られた結果をもとに課題整理を行ったところ、解決の方向性の全容が見えた。課題解決については、本庁全体で取り組んでいく必要があることから、他部署等との連携が必要となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、空地の利活用を検討するうえで所有者の意向把握が必要となるため、意向調査を実施する必要がある。</li> <li>・施策の主管が想定される関連各課や、連携が想定される町内の団体・事業者等との調整、ヒアリング等を行い、施策の実施に向けた連携体制の構築が必要となる。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

基礎調査業務により得られた本町の住環境における課題や解決の方向性を踏まえた上で、定住促進施策の検討や施策制度の立案、予算化に向けた課題等の整理等を実施し、本町の居住実態に即した住環境整備を行うための、制度の確立を行う。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
13,413	13,413	10,730	2,683	0



資金の流 れ、費 用	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法に関して、プロポーザルにより決定した。県内において、同様の業務実績を有する業者が居なかったことから、実績を有することを条件としたプロポーザルによる業者選定を行った。結果、事業遂行能力を勘案した内容での発注ができた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、不要額が事業費の1%以内であり適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目及び使途については、嘉手納町住環境整備基本計画(基礎調査)業務を実施するうえで、事業目的に沿った支出であり適正であるとする。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-①	航空機騒音測定業務強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	2-(5)-ア	
担当部課名	基地渉外課	事業実施(予定)年度	平成27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	米軍基地から派生する諸問題への対応	
事業内容	嘉手納飛行場周辺における航空機騒音被害について、より詳細なデータ収集を行うため、既存の騒音測定装置の近傍に気象情報測定器を整備し、風向・風速などの各種気象情報を観測する。さらに苦情連絡時における騒音発生ポイントでの騒音レベル測定用に携帯型騒音計を整備する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	(a) 当初予算額	1,252					
	(b) 予算現額	1,157					
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 95					
	(d) 繰越額						
	A. 計 (b+d)	1,157					
	B. 執行済額	1,157					
	うち交付金充当額	925					
	次年度繰越額	0					
	執行率 (%) (B/A)	100.0%					
予算の状況の説明	事業計画どおりに執行を行った。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H27活動目標(指標)	達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	気象情報測定器の設置(一式)	目標	( 一式 )	( )	( )	( )	
		実績	一式				
	携帯型騒音計の購入(1台)	目標	( 1台 )	( )	( )	( )	
		実績	1台				
達成状況説明	気象情報測定器を役場庁舎屋上に設置した。また、携帯型騒音計(1台)を購入した。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
	風向・風速等を加味した航空機騒音の詳細なデータの把握:毎日測定	目標	( )	( 100% )	( )	( )	( )
		実績		100%			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	気象情報測定器を町役場庁舎屋上に設置し、風速、風向、気温、湿度、気圧、雨量を毎日観測した。また、携帯型騒音計を購入し、航空機の目視調査や町民から寄せられる苦情の際、活用した。 嘉手納飛行場は、住民居住地域の南側に位置している。 町民から寄せられる騒音、悪臭に対する苦情は気象条件による影響もあると考えられる。そのうち風向について、冬季は住民居住地域から嘉手納飛行場への北風が比較的多く測定された。また、夏季は嘉手納飛行場から住民居住地域への南風が測定されるものと推測される。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>気象情報測定器により現在得られているデータは、主に冬季に観測されたものであり、極めてデータ量が少ない。</p> <p>携帯型騒音計の活用の一例として、町民からの苦情受付後、担当職員が屋外で測定を実施している。町民からの連絡が、事案発生からかなりの時間が経っている場合も少なくない。</p>	<p>気象情報測定器については、南風となる夏季のデータ蓄積を行う。</p> <p>携帯型騒音計の活用については、騒音、悪臭の事案発生から測定まで迅速な対応が必要となる。</p>
今後の取り組み方針		
<p>嘉手納飛行場から住民居住地域への風向となる夏季のデータ蓄積を行う。</p> <p>今後は、外勤や町内在住町役場職員の協力による迅速な連絡体制を図る。</p> <p>毎年度実施している嘉手納基地に関する諸問題に対する国等への要請について、機器整備により得られたデータを活用し、より具体的根拠を示し要請活動を行う。</p> <p>データ分析手法の確立を図る。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	1,157	1,157	925	232	0
<pre> graph LR     A[嘉手納町 1,157千円] --&gt; B[備品購入費 855千円]     A --&gt; C[委託料 302千円]     B --&gt; D[西川計測株式会社 855千円]     C --&gt; E[西川計測株式会社 302千円]     D --- F["( 携帯型騒音計 1台 気象情報測定器 一式 )"]     E --- G["( 気象情報測定器設置 )"] </pre>					

資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○備品購入費、委託料ともに法令に準じた随意契約となっており、妥当であったと考えている。</p> <p>○不用額は、極少であり適正な規模であった。</p> <p>○費目、使途については目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

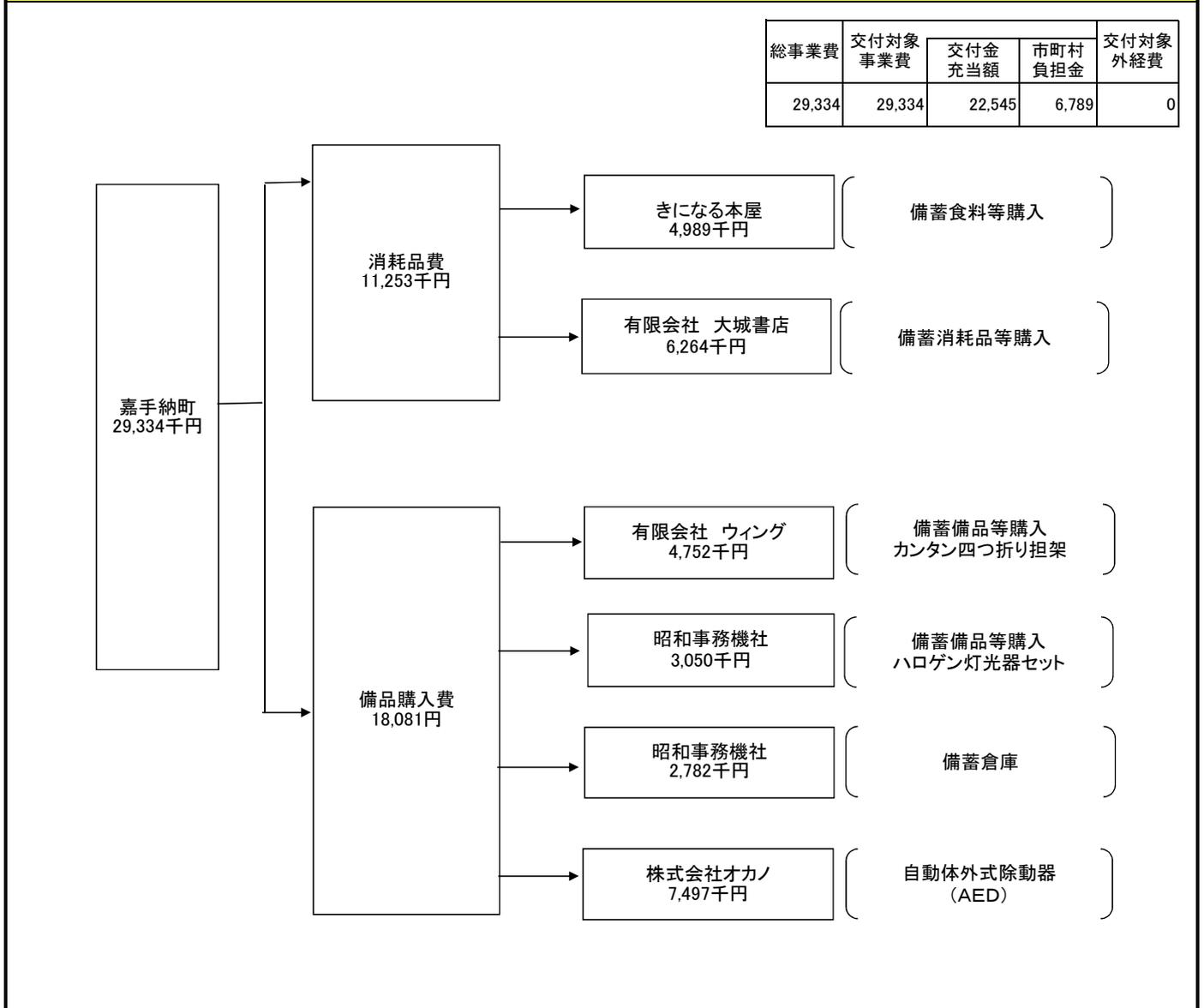
市町村名		嘉手納町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10-①	避難施設防災機能強化整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	社会リスクセーフティネットの確立 Ⅲ-10-(2)	
事業内容	嘉手納町内の防災・減災の強化の実現に向けて、避難所において、防災機能強化として、非常食料の備蓄、生活必需品の備蓄、避難所設置応急対策備品の確保を図り、避難所の防災機能を強化する。合わせて、保管用の備蓄倉庫を設置する。また、避難所等へAEDを設置し、避難所施設の機能強化を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	(a) 当初予算額	35,787					
	(b) 予算現額	29,334					
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 6,453					
	(d) 繰越額						
	A. 計 (b+d)	29,334					
	B. 執行済額	29,334					
	うち交付金充当額	22,545					
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)	100%					
嘉手納町の防災・減災に向けて備蓄倉庫を設置し必要最低限の備蓄品を図った。予算額と執行済額の差額は、指名競争入札によるものである。							
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	町内の避難所へ備蓄品等の配置及び保管用備蓄倉庫の設置(3か所)	目標	( 3か所備蓄品配置 )	( )	( )	( )	
		実績	3か所備蓄品配置				
	町内の避難所等へAEDの整備(33か所)	目標	( 町内の避難所等へのAEDの整備 )	( )	( )	( )	
実績		町内の避難所等へのAED33か所設置					
達成状況説明	防災施設の機能強化や非常食料の備蓄、生活必需品の備蓄、避難所設置応急対策備品の充実が図られた。又、33か所へAEDを配置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	町内の避難所へ備蓄品等の配置及び保管用備蓄倉庫の設置(3か所)	目標	( )	( 3か所備蓄品配置 )	( )	( )	( )
		実績		3か所備蓄品配置			
	町内の避難所等へAEDの整備(33箇所)	目標	( )	( 33箇所AED配置 )	( )	( )	( )
		実績		33箇所AED配置			
進捗状況説明	防災施設の機能強化や非常食料の備蓄、生活必需品の備蓄、避難所設置応急対策備品の充実が図られ、今後全避難所施設等に備蓄品を配置し、又、AEDについては、コンビニや給油所等24時間の営業所へ設置に向け、防災の強化に努める。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	嘉手納町内の防災・減災の強化に向けて、今回整備した避難所設置応急対策備品などを災害時にスムーズに活用できるよう防災訓練を実施していく必要がある。加えて、防災について町民への周知が不十分である。今後取り組む必要がある。	嘉手納町内の防災・減災に向けて、有事の際に整備した備品・消耗品等を活用できるよう、テントの設営・発電機等の使用法など実践的な防災訓練を実施していく。また、町広報誌やホームページを活用して、防災についての情報の周知を実施し、意識啓発を図る。

**今後の取り組み方針**

嘉手納町内の防災・減災の強化に向けて、テントの設営・発電機等の使用法や食料品の有効利用を図り、実践的な防災訓練を実施していく。今後、防災・減災について町広報誌やホームページを活用し広く周知する。また、地域防災計画の見直し時にハザードマップの充実を図っていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争方式により選定しており、妥当である と考える。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、複数社から見積をもらい決定して おり適正であると考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的の観点から必要か等につ いて額の確定時において支出等に関する書類により確認、 適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	